

神奈川縣横濱市長 舟崎安守殿  
右婚姻=同意致候

證人

丙 山高之助 明治十八年七月十日生

夫ノ戸主夫 甲 野義太郎 慶應元年九月二日生

夫ノ母 甲 野梅子 明治二年八月六日生

妻ノ戸主妻 乙 原信藏 明治元年三月一日生

妻ノ母 乙 原秋子 明治五年七月五日生

備考 本例ニ依ル届書ハ三通ヲ差出スヘシ

第二 婿養子婚姻ノ場合

婚姻届

本籍

父 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎孫無職業  
母 甲野禮二郎 長女  
梅子

妻

本籍

父 千葉縣千葉郡千葉町一番地戸主乙川孝輔二男無職業  
母 乙川孝輔 二男  
甲野百合子 明治三十二年三月三日生

夫 婿養子

乙川孝之丞 明治三十年八月八日生

右婿養子婚姻及御届候也  
大正八年六月十日

届出人

妻 甲野百合子

夫 乙川孝之丞

本籍 東京市麴町區元園町四丁目六番地戸主 丁 原廣吉 明治十年十月十日生

本籍 東京市麴町區平河町三丁目一番地戸主 丙 川清 明治十二年一月一日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿  
右婚姻=同意致候

妻ノ戸主 甲野義太郎



備考 一 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ  
 二 第三款第七ノ例ニ依ル塔養子縁組届ト共ニ本例ニ依ル届書ヲ差出スヘキモノトス

妻ノ父 甲 安政二年十月七日生  
 野 禮 二 郎 ①  
 明治十年六月十日生

妻ノ母 甲 野 梅 子 ①  
 明治十二年九月七日生

夫ノ戸主夫 乙 川 孝 輔 ①  
 明治十年四月四日生

夫ノ父 乙 川 孝 輔 ①  
 明治十三年七月八日生

夫ノ母 乙 川 龜 子 ①  
 明治十三年七月八日生

第三 入夫婚姻ノ場合

婚姻届

本籍 東京市麴町區三番町四番地戸主學校教員  
 父亡 甲 野 義 藏 長女  
 母 秋 子  
 妻 甲 野 藤 子  
 明治二十年六月三日生

本籍

千葉縣千葉郡千葉町五番地戸主乙川忠吉二男官吏  
 父 乙 川 忠 吉  
 母 龜 子 二男  
 乙 川 忠 二 郎  
 明治十八年十月十日生

入夫

右入夫忠二郎戸主ト爲ル  
 右入夫婚姻及御届候也  
 大正八年五月五日

届出人

妻 甲 野 藤 子 ①  
 入夫 乙 川 忠 二 郎 ①  
 本籍 千葉縣千葉郡千葉町十番地戸主  
 證人 丁 原 廣 吉 ①  
 明治十年八月三日生

本籍 千葉縣千葉郡千葉町二十番地戸主  
 證人 丙 原 高 之 助 ①  
 明治十八年七月十日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

右婚姻ニ同意致候

入夫ノ戸主 乙 川 忠 吉 ①  
 慶應元年十月三日生



戸籍 届書申請書式 婚姻

一四八

- 備考
- 一 入夫カ戸主ト爲ルトキハ別ニ家督相續ノ届出ヲ要セス
  - 二 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ
  - 三 入夫カ戸主ト爲ラサル場合ノ届書ハ本例中「右入夫忠二郎戸主ト爲ル」ノ記載ヲ爲ササレハ足ルモノトス

第四 嫡出子ノ身分ヲ取得スル庶子アル場合

婚姻届

夫	本籍	東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主官吏
	父亡	甲 野 仁 吉
	母亡	松 子
		長男
		甲 野 義 太 郎
		明治二十年九月十日生
	本籍	千葉縣千葉郡千葉町五番地戸主乙野忠吉妹無職業
	父亡	乙 野 忠 藏
	母	秋 子
		長女
		乙 野 梅 子
		明治二十一年一月十日生
妻		禮 太 郎
		明治四十三年五月五日生
	父	甲 野 義 太 郎
	母	乙 野 梅 子
		庶子男

右禮太郎父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子ノ身分ヲ取得シ長男ト爲ル  
右婚姻及御届候也  
大正八年十一月七日

届出人

夫	甲 野 義 太 郎
妻	乙 野 梅 子
本籍	東京市麴町區三番町五番地戸主
證人	丁 原 廣 吉
	明治十年八月三日生
本籍	東京市麴町區平河町二丁目三番地戸主
證人	丙 山 高 之 助
	明治十八年七月十日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿  
右婚姻ニ同意致候

妻ノ戸主 乙 野 忠 吉

明治十八年四月九日生

- 備考
- 一 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ
  - 二 本例ハ庶子カ父ノ家ニ在ル場合ナルモ庶子カ母ノ家其ノ他家ニ在ルトキハ本例中庶子ノ届書ニ其ノ本籍、戸主ノ氏名、戸主トノ續柄ヲ記載スヘシ而シテ庶子カ他家ニ在ル場合ニハ更ニ届書一通ヲ差出スヘキモノトス

第五 戸内ニ於テ婚姻ヲ爲ス場合

戸籍 届書申請書式 婚姻

一四九



婚姻届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戶主甲野義太郎長男官吏  
 父 甲野義太郎  
 母 梅子  
 長男 甲野禮太郎  
 明治二十九年九月七日生

本籍 同所戶主甲野義太郎養女無職業  
 父 東京市麴町區元園 乙川孝輔  
 母 東京市麴町區元園 一丁目一番地 松子  
 二女 甲野櫻子  
 明治三十年十月八日生

右婚姻及御届候也  
 大正八年九月十日

届出人  
 夫 甲野禮太郎  
 妻 櫻子  
 本籍 東京市麴町區三番町五番地戶主  
 證人 丁原廣吉  
 明治十年八月四日生

本籍 東京市麴町區千河町二丁目三番地戶主

證人 丙山高之助  
 明治十八年七月十日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿  
 右婚姻ニ同意致候

戶主夫ノ父 甲野義太郎  
 明治十年四月八日生

夫ノ母 甲野梅子  
 明治十一年七月七日生

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

第六 養家又ハ婚家ヨリ更ニ他家ニ婚姻スル場合  
 一 養家ヨリ更ニ他家ニ婚姻スル場合

婚姻届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戶主甲野義太郎二男官吏  
 父 甲野義太郎  
 母 梅子  
 二男 甲野禮二郎  
 明治二十九年五月五日生

本籍 東京市麴町區元園町一丁目八番地戶主乙原信藏孫無職業  
 養父 乙原信一



戸籍 届書申請書式 婚姻

一五二

實家戸主

養母 千葉縣千葉郡千葉町一番地丙原丁助  
實父 丙 原 丁 助  
實母 竹 子 長女

妻

乙 原 信 子  
明治三十年五月六日生

右婚姻及御届候也

大正八年七月五日

届出人

夫

甲 野 禮 二 郎 甲  
乙 原 信 子 甲

本籍

東京市麴町區三番町五番地戸主

證人

丁 原 廣 吉 甲  
明治十年八月三日生

本籍

東京市麴町區平河町二丁目三番地戸主

證人

丙 山 高 之 助 甲  
明治十八年七月十日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

右婚姻ニ同意致候

夫ノ戸主夫ノ父

甲 野 義 太 郎 甲  
明治十年八月七日生

一一 婚家ヨリ更ニ他家ニ婚姻スル場合

婚姻届

備考 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎二男官吏  
父 甲野義太郎 二男  
母 梅 子

夫

甲 野 禮 二 郎  
明治二十九年五月五日生

本籍

東京市麴町區元園町一丁目八番地戸主乙原信藏婦無職業

戸籍 届書申請書式 婚姻

一五三



實家戸主 千葉縣千葉郡千葉町一番地戸主丙原丁助  
 父 丙原丁助 長女  
 母 竹子 子  
 乙 原信子  
 明治三十年五月六日生

右婚姻及届候也  
 大正八年七月五日

届出人

夫 甲野禮二郎  
 妻 乙原信子  
 本籍 東京市麴町區三番町五番地戸主  
 證人 丁原廣吉  
 明治十年八月三日生

本籍 東京市麴町區平河町二丁目三番地戸主  
 證人 丙山高之助  
 明治十八年七月十日生

東京市麴町區長雲井高輔殿  
 右婚姻ニ同意致候

夫ノ戸主夫 甲野義太郎  
 ノ父 明治十年八月七日生  
 夫ノ母 甲野梅子

第七 女戸主カ廢家ノ上婚姻ヲ爲ス場合

婚姻届

備考 本例ニ依ル届書ハ二通ナ差出スヲ以テ足ル

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎二男官吏  
 父 甲野義太郎 二男  
 母 梅子  
 甲野禮二郎  
 明治二十九年五月五日生

本籍 神奈川縣橋樹郡橋村百番地戸主無職業  
 父 丙原丁助 長女  
 母 ナベ 丙原泰子  
 明治三十年五月六日生

右存子廢家ノ上婚姻



妻春子ト  
共ニ入籍 妻春子母

父亡 乙 山 松 助 二女  
母亡 雪 子

丙 原 ナ ベ  
明治十年四月四日生

右婚姻及御届候也

大正八年七月五日

届出人

夫 甲 野 禮 二 郎 印  
妻 丙 原 春 子 印

本籍 東京市麴町區麴町六丁目八番地戶主

證人 丁 原 廣 吉 印

本籍 東京市麴町區平河町二丁目三番地戶主

明治十年八月四日生

證人 丙 山 高 之 助 印

本籍 東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

明治十八年七月十日生

右婚姻ニ同意致候

夫ノ戸主夫 甲 野 義 太 郎 印  
ノ父 慶應元年二月二日生

夫ノ母 甲 野 梅 子 印

妻ノ母 丙 原 ナ ベ 印  
明治二年八月六日生  
明治十年四月四日生

備考 一 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ  
二 第三款第九備考参照ノコト

第八 婚姻取消ノ裁判アリタル場合

婚姻取消届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戶主

夫

甲 野 義 太 郎  
明治二十三年九月十六日生

實家 千葉縣千葉郡千葉町五番地戶主乙野忠吉妹

父亡 乙 野 忠 藏  
母 秋 子 長女

妻

梅 子  
明治二十九年八月十日生

大正八年六月十四日婚姻取消ノ裁判確定

右婚姻取消別紙裁判ノ謄本及判決確定證明書相添へ及御届候也

大正八年六月十八日



届出人 妻梅子母 乙 野 秋 子<sup>㊦</sup>

明治五年十二月一日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

備考

- 一 本例ハ妻梅子カ母ノ同意ヲ得スシテ婚姻ヲ爲シ母ヨリ其ノ取消ノ訴ヲ提起シタル場合ナリトス
- 二 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ
- 三 妻カ一家ヲ創立シ又ハ實家ヲ再興スル場合ノ届出ニ付テハ第三款第八參照ノコト

### 第六款 離婚

離婚トハ法律上夫妻ノ關係ヲ消滅セシムル行爲ニシテ其ノ方法ハ夫妻ノ協議ニ因ルモノト裁判ニ基クモノトノ二トス而シテ協議ニ因ル離婚ハ市町村長ニ届出ツルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス(民第八一〇條)

離婚ノ訴ハ一定ノ場合ニ限リテ提起スルコトヲ得(民第八一三條)即チ夫婦ノ一方ハ左ノ場合ニ限リ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス

- 一 配偶者カ重婚ヲ爲シタルトキ
- 二 妻カ姦通ヲ爲シタルトキ
- 三 夫カ姦淫罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルトキ
- 四 配偶者カ偽造、賄賂、猥褻、竊盜、強盜、詐欺取財、受寄財物費消、贓物ニ關スル罪若ハ刑法第百

七十五條第二百六十條ニ掲ケタル罪ニ因リテ輕罪以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ罪ニ因リテ重禁錮三年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

- 五 配偶者ヨリ同居ニ堪ヘサル虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 六 配偶者ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ
- 七 配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 八 配偶者カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ
- 九 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ
- 十 婿養子縁組ノ場合ニ於テ縁縁アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ縁縁若ハ縁組ノ取消アリタルトキ

離婚ニ關スル同意ニ付テハ婚姻ノ例ニ依リ左ニ同意ニ關スル圖解ヲ示ス (本例ハ婚姻ニ因リテ夫ノ家ニ入リタル妻カ離婚ニ因リテ夫家ヲ去ル場合ヲ示ス)

當事者ノ年 齡	當 事 者 ノ 地 位	同 意 者
夫妻共ニ滿 二 十 五 年ニ 達シタル者	實家ヨリ他家ニ婚姻後離婚ノ場合 養家ヨリ更ニ他家ニ婚姻後離婚ノ 場合	ナシ ナシ



未成年者	夫妻共ニ滿 二十五年ニ 達セサル成 年者	婚家ヨリ更ニ他家ニ婚姻後離婚ノ 場合	ナシ
	實家ヨリ他家ニ婚姻後離婚ノ場合	實家ニ在ル父母	
未成年者	養家ヨリ更ニ他家ニ婚姻後離婚ノ 場合	養家ニ在ル父母	
	婚家ヨリ更ニ他家ニ婚姻後離婚ノ 場合	婚家ニ在ル父母	
	實家ヨリ他家ニ婚姻後離婚ノ場合	實家ニ在ル父母	
	養家ヨリ更ニ他家ニ婚姻後離婚ノ 場合	養家ニ在ル父母	
	婚家ヨリ更ニ他家ニ婚姻後離婚ノ 場合	婚家ニ在ル父母	
	父母共ニ知レサルトキ、死亡シタ ルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其 ノ意思ヲ表示スルコト能ハサルト キ	親族會及後見人	

父母ノ同意ニ付尙ホ次ノ數點ヲ注意スヘシ

- 一 父母カ同意ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其ノ一方カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ同意ノミヲ以テ足ル
- 二 繼父母又ハ嫡母カ婚姻ニ同意セサルトキハ親族會ノ同意ヲ得レハ可ナリ

**第一項 届出期間**

既ニ述ヘタル如ク協議上ノ離婚ハ届出ニ因リテ其ノ效力ヲ生スルモノナルヲ以テ別ニ届出ノ期間ニ定ナキハ勿論ナルモ唯裁判ニ因ル離婚ニ付テハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ届出ヲ爲スヘキモノトス(戸第一〇五條)

**第二項 届出地**

離婚ニ付テハ特別ノ届出地ノ定ナキヲ以テ届出通則ノ規定ニ從テ各當事者ノ本籍地又ハ所在地ノ市町村長ニ届出ツルコトヲ得ルモノトス(戸第四三條)

**第三項 届出人**

離婚モ亦養子縁組、離縁、婚姻等ト同ク當事者自身及成年ノ證人二人以上ヨリ届出ツヘキモノトス假令本人カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキト雖自ラ届出ツルコトヲ要ス蓋離婚モ亦養子縁組、離縁、婚姻等ト同ク當事者ノ意思ニ基クモノナルヲ以テ自ラ届出テシムルハ當然トス(民第八一〇條)  
裁判ニ因ル離婚ハ訴ヲ提起シタル者ヨリ届出ツヘキモノトス(戸第一〇五條)

**第四項 届書ノ作製**

離婚ノ届書ニハ届出通則ニ掲ケタル一般ノ事項(第一節第三款)ノ外離婚ニ特別ナル左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、本籍及職業

戸籍 届書申請書式 離婚



- 二 父母ノ氏名及本籍
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名及本籍
- 四 婚家ヲ去ル者ノ復籍スヘキ家ノ戶主ノ氏名及本籍
- 五 婚家ヲ去ル者カ一家ヲ創立スルトキハ其ノ旨及創立ノ原因竝場所但シ實家ヲ再興スルトキハ其ノ旨及再興ノ場所
- 六 裁判ニ因ル離婚ノ屆書ニハ前各號ニ掲ケタル事項ノ外裁判確定ノ日

第五項 屆書式

第一 普通ノ協議離婚

一 婚家ト實家ト本籍地ヲ同クスル協議離婚ヲ婚家ノ本籍地ニ届出ツル場合

離婚届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戶主甲野義太郎二男官吏  
 父 甲野義太郎  
 母 梅子  
 夫 甲野禮二郎  
 實家 東京市麴町區元園町一丁目六番地戶主乙原信藏二女無職  
 業

妻

父 乙原信藏 二女  
母 秋子

藤子

右協議ニ因ル離婚及御届候也  
大正八年六月五日

届出人

甲野禮二郎

夫

本籍 東京市麴町區三番町五番地戶主

妻

丁原廣吉

本籍 東京市麴町區平河町一丁目三番地戶主

證人

丙山高之助

東京市麴町區長 雲井高輔殿  
右離婚ニ同意致候

夫ノ父

甲野義太郎

夫ノ母

甲野梅子

妻ノ父

乙原信藏



戸籍 届書申請書式 離婚

一六四

備考 本例ニ依ル届書ハ二通 差出スヘシ

二 婚家ト實家ト本籍地ヲ同クスル協議離婚ヲ夫ノ所在地ニ届出ツル場合

離婚届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎二男官吏  
所在(住所寄留)千葉縣千葉郡千葉町一番地

父 甲野義太郎 二男  
母 梅子

甲野禮太郎

夫

實家

東京市麴町區元園町一丁目八番地戸主乙原信藏二女無職

父 乙原信藏 二女  
母 秋子

藤子

明治三十一年五月六日生

妻

右協議ニ因ル離婚及御届候也

大正八年六月五日

届出人

本籍 東京市麴町區三番町五番地戸主  
夫 甲野禮太郎  
妻 藤子

本籍 東京市麴町區平河町一丁目三番地戸主  
證人 丁原廣吉

千葉縣千葉郡千葉町長 波川保吉殿  
證人 丙山高之助

右離婚ニ同意致候

夫ノ父 甲野義太郎

夫ノ母 甲野梅子

妻ノ父 乙原信藏

妻ノ母 乙原秋子

備考 本例ニ依ル届書ハ三通ヲ差出スヘシ

三 婚家ト實家ト本籍地ヲ異ニスル協議離婚ヲ婚家ノ本籍地ニ届出ツル場合

戸籍 届書申請書式 離婚

一六五



離婚届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎二男官吏  
父 甲野義太郎 二男  
母 梅子

夫

實家

千葉縣千葉郡千葉町四番地戸主乙原信藏二女無職業  
父 乙原信藏 二女  
母 秋子  
甲野禮二郎  
明治三十年五月五日生

妻

藤子  
明治三十一年五月六日生

右協議ニ因ル離婚及御届候也

大正八年六月五日

届出人

夫 甲野禮二郎  
妻 藤子  
明治十年八月三日生

本籍

東京市麴町區三番町五番地戸主  
証人 丁原廣吉  
明治十年八月三日生

本籍

東京市麴町區平河町一丁目三番地戸主

証人

丙 山高之助  
明治十一年七月十日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿  
右離婚ニ同意致候

夫ノ父

甲野義太郎  
明治元年十月十日生

夫ノ母

甲野梅子  
明治二年八月六日生

妻ノ父

乙原信藏  
明治十年三月四日生

妻ノ母

乙原秋子  
明治十四年四月八日生

備考 大例ニ依ル届書ハ三通ヲ差出スヘシ

四 婚ニト實家ト本籍地ヲ異ニスル協議離婚ヲ夫ノ所在地ニ届出ツル場合

離婚届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎二男官吏  
所在(住所寄留) 横浜市加瀬町一丁目一番地  
父 甲野義太郎 二男  
母 梅子

夫

甲野禮二郎



實家

千葉縣千葉郡千葉町四番地戶主乙原信藏二女無職業  
父 乙原信藏  
母 秋子 二女

藤子  
明治三十一年五月六日生

妻

右協議ニ因ル離婚及御届候也

大正八年六月五日

届出人

夫 甲野禮二郎  
妻 藤子

本籍 東京市麴町區三番町五番地戶主

證人 丁原廣吉  
明治十年八月三日生

本籍 東京市麴町區平河町一丁目一番地戶主

證人 丙山高之助  
明治十八年七月十日生

横濱市長 舟崎安守殿

右離婚ニ同意致候

夫ノ父 甲野義太郎  
明治元年九月七日生

夫ノ母 甲野梅子  
明治二年八月六日生

妻ノ父 乙原信藏  
明治十年三月四日生

妻ノ母 乙原秋子  
明治十四年四月八日生

備考 本例ニ依ル届書ハ三通ヲ差出スヘシ

第二 婿養子カ離縁ト同時ニ離婚ヲ爲ス場合

婿養子離婚届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戶主甲野義太郎孫無職業  
父 甲野禮二郎 長女  
母 梅子

妻

實家

千葉縣千葉郡千葉町一番地戶主乙川孝輔二男無職業  
父 乙川孝輔 二男  
母 龜子

夫 婿養子

孝之丞  
明治三十五年八月八日生



右協議ニ因ル培養子離婚及御届候也  
大正十年十月十日

届出人

妻 甲野百合子(印)  
夫 孝之丞(印)

本籍 東京市麹町區元園町四丁目六番地戸主

證人 丁野廣吉(印)

本籍 東京市麹町區平河町三丁目一番地戸主

證人 丙川清(印)

東京市麹町區長 雲井高輔殿  
右離婚ニ同意致候

妻ノ父 甲野禮二郎(印)

妻ノ母 甲野梅子(印)

夫ノ父 乙川孝輔(印)

夫ノ母 乙川龜子(印)

備考 一 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出ス、シ

二 本届書ト共ニ別ニ第四、第六ノ例ニ依リ離婚届ノ差出スヘシ

第三 入夫離婚ノ場合

一 入夫カ戸主ナル場合

離婚届

本籍

東京市麹町區三番町四番地戸主甲野忠二(妻)小學校教員  
父 甲野義藏 長女  
母 秋子

妻

實家

千葉縣千葉郡千葉町九番地戸主乙川忠吉(二男)官吏  
父 乙川忠吉 二男  
母 龜子

入夫戸主

甲野藤子  
明治二十年六月三日生

右協議ニ因ル入夫離婚及御届候也  
大正九年七月八日

届出人

妻 甲野藤子(印)  
入夫 忠二郎(印)



本籍 千葉縣千葉郡千葉町十番地戸主

証人 丁 原 廣 吉 明治十年八月三日生

本籍 千葉縣千葉郡千葉町二十番地戸主

証人 丙 原 高 之 助 明治十八年七月十日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ

二 戸主タル入夫離婚ノ場合ニハ別ニ家督相續人ヨリ家督相續届ヲ爲スヘキモノトス

二 入夫カ戸主ニ非サル場合

離婚届

本籍

東京市麴町區三番町四番地戸主小學校教員

父亡 甲 野 義 藏 長女

母 秋 子 甲 野 藤 子

實家

千葉縣千葉郡千葉町五番地戸主乙川忠吉二男官吏

父 乙 川 忠 吉 二男

母 龜 子

入夫

忠二郎 明治十八年十月十日生

右協議ニ因ル入夫離婚及御届候也

大正九年七月八日

届出人

妻 甲 野 藤 子

入夫 忠二郎

本籍 千葉縣千葉郡千葉町十番地戸主

証人 丁 原 廣 吉 明治十年八月三日生

本籍 千葉縣千葉郡千葉町二十番地戸主

証人 丙 原 高 之 助 明治十八年七月十日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

備考 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ

第四 裁判ニ因ル離婚ノ場合

離婚届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎二男官吏

父 甲 野 義 太郎 二男

母 梅 子

戸籍 届書申請書式 離婚



夫

實家

千葉縣千葉郡千葉町四番地戸主乙原信藏二女無職業  
父 乙原信藏 二女  
母 秋子

妻

甲野禮二一郎  
明治二十九年五月五日生  
藤子  
明治三十年五月六日生

大正八年六月五日離婚ノ裁判確定  
右裁判ニ因ル離婚別紙裁判ノ謄本及判決確定證明書相添ヘ及御届候也  
大正八年六月十日

届出人

夫

甲野禮二一郎

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ  
二 本例ハ夫カ訴ヲ提起シタル場合ナリトス

第五 離婚ニ因リテ實家ニ復籍スルコト能ハサル場合

一 實家ノ廢絶ニ因リテ一家ヲ創立スル場合

離婚届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎二男官吏

父 甲野義太郎 二男  
母 梅子

甲野禮二一郎  
明治二十年五月五日生

去

父 東京市神田區錦  
町三丁目一番地 乙原信藏 二女  
母 秋子

藤子  
明治三十年五月六日生

妻 無職業

右藤子實家千葉縣千葉郡千葉町四番地戸主乙原信太郎大正七年五月八日廢家(絶家)ニ付山京  
市麴町區三番町一番地ニ一家創立丙原氏ヲ稱ス  
右協議ニ因ル離婚及御届候也  
大正八年六月五日

届出人

夫

甲野禮二一郎

本籍

東京市麴町區三番町五番地戸主

妻

藤子

本籍

東京市麴町區三番町五番地戸主

證人

丁原廣吉  
明治二十九年七月八日生

本籍

東京市麴町區元園町三丁目三番地戸主

證人

丙山高之助



東京市麴町區長 雲井高輔殿  
右離婚ニ同意致候

明治十年七月十日生

夫ノ父 甲野義太郎  
明治元年九月七日生  
夫ノ母 甲野梅子  
明治二年八月六日生

備考

一 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ  
二 一家創立ノ戸籍ニハ婚家ノ戸籍中妻ノ事項欄ニ記載シアル身分ニ關スル事項一切ヲ移記スヘキモノナルニ付婚家ト一家創立地ト市町村役場ノ管轄ヲ異ニスルトキハ本書式中一家創立ノ項ノ次ニ左ノ例ニ依リ其ノ身分事項ヲ記載スルカ又ハ其ノ記載ニ代ヘ婚家ノ戸籍ノ謄本ヲ届書ニ添附スヘシ  
婚家ノ戸籍ニ記載シアル妻ノ身分ニ關スル事項

一 何々  
二 何々  
三 何々

(第三款第八ノ二ノ備考三参照)

二 復籍ノ拒絶ニ因リテ一家ヲ創立スル場合

離婚届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎二男官吏

夫

父 甲野義太郎 二男  
母 梅子

甲野禮二 郎  
明治二十九年五月五日生

妻 無職業

父亡 乙原信藏 二女  
母 秋子

藤子  
明治三十年五月六日生

右藤子婚姻ニ付千葉縣千葉郡千葉町四番地實家戸主乙原信太郎ノ同意ヲ得サリシ爲大正五年九月八日復籍ヲ拒絶セラレタルニ付東京市麴町區三番町一番地ニ一家創立丙原氏ヲ稱ス  
右協議ニ因ル離婚及御届候也  
大正八年六月五日

届出人

夫 甲野禮二 郎  
妻 藤子

本籍 東京市麴町區三番町五番地戸主

證人 丁原廣吉  
明治十年九月八日生

本籍 東京市麴町區元園町三丁目三番地戸主

證人 丙山高之助  
明治十年七月十日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿



右離婚ニ同意致候

夫ノ父 甲 野 義 太 郎 ⑩  
 明治元年九月七日生

夫ノ母 甲 野 梅 子 ⑪  
 明治二年八月六日生

備考 一 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ  
 二 ノ備考ニ参照

三 廢絶シタル實家ヲ再興スル場合

離婚届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎二男官吏

父 甲野義太郎 二男  
 母 梅子

夫 甲野禮二 一郎  
 明治二十九年五月五日生

妻 無職業

父 東京市麴町區三番地 乙原信藏 二女  
 母 秋子 藤子

明治三十年五月六日生

右藤子實家千葉縣千葉郡千葉町四番地戸主乙原信太郎大正五年九月九日廢家(絶家)ニ付東京

市麴町區元園町一丁目八番地ニ乙原氏再興

右協議ニ因ル離婚及御届候也

大正八年六月五日

届出人

夫 甲野禮二 一郎 ⑩  
 妻 藤子 ⑪

本籍 東京市麴町區三番町五番地戸主

證人 丁原廣吉 ⑫  
 明治十年九月八日生

本籍 東京市麴町區元園町三丁目三番地戸主

證人 丙山高之助 ⑬  
 明治十年七月十日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

右離婚ニ同意致候

夫ノ父 甲野義太郎 ⑩  
 明治元年九月七日生

夫ノ母 甲野梅子 ⑪  
 明治二年八月六日生

備考 一 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ  
 二 ノ備考ニ参照

第六 養女タル妻ノ離縁ニ因リ夫タル養子カ其ノ選擇ニ從ヒ離婚ヲ爲ス場合

戸籍 届書申請書式 離婚



離婚届

本籍

東京市麹町區麹町四丁目六番地戸主甲野義太郎養子官吏

父 乙川孝一 二男  
母 龜子

甲野孝造  
明治三十五年一月五日生

夫

右孝造妻龜子離縁ニ因リテ養家ヲ去ルヘキニ付離婚ヲ選擇ス

實家

東京市麹町區元園町三丁目一番地戸主丙山信藏長女

父 丙山信藏 長女  
母 鳥子

冬子  
明治三十五年三月四日生

妻

右選擇ニ因ル離婚及御届候也

大正八年十月一日

届出人

夫 甲野孝造

東京市麹町區長 雲井高輔殿

備考

一 選擇ニ因ル離婚ハ夫ノ一方行爲ナルヲ以テ夫ノミヨリ届出ヲ爲スヘク尙届出

ニ付同意ヲ得ルノ必要ナシ

二 本例ノ場合届書ハ二通ヲ差出スヘシ

三 本節第四款第五項第九參照

第七款 親權

親權トハ子ノ身上及財産上ノ利益ヲ圖ル爲ニ子ト家ヲ同クスル父又ハ母ノ行フ權利ニシテ大體左ノ四種ニ分ツコトヲ得

- 一 未成年ノ子ノ監護及教育ヲ爲ス權利義務(民第八七九條)
- 二 子ノ懲戒權(民第八八二條)
- 三 未成年ノ子ノ財産ヲ管理シ又ハ其ノ子ノ財産ニ關スル法律行爲ニ付テ子ヲ代表スル權利(民第八八四條)
- 四 未成年ノ子ニ代リテ戸主權及親權ヲ行フ權利(民第八九五條)

次ニ親權ヲ行フヘキ者ハ子ト家ヲ同クスル父トス若父カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ親權ヲ行フコト能ハサルトキハ家ニ在ル母親權ヲ行フ(民第八七七條)

父又ハ母カ親權ヲ濫用シ又ハ著ク不行跡ナルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リテ親權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得ルモノトス(民第八九六條)又親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ其ノ子ノ財産ヲ危クシタルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リテ管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得(民第八九七條)而シテ父カ親權又ハ管理權ノ喪失ノ宣告ヲ受ケタルトキハ母親權又ハ管理權ヲ行フモノ



トス父カ親権者ナルコト又ハ父ノ死亡、去家等ニ因リテ母カ親権者ナルコトハ別ニ届出ヲ爲サストモ子ノ戸籍自體ニ於テ明瞭ナルモ父カ親権又ハ管理權ノ喪失ノ宣告ヲ受ケタル爲母カ其ノ權利ヲ行フ場合ニ母カ親権又ハ管理權ヲ行フ者ナルコトハ戸籍面ニ於テ之ヲ知ルコトヲ得サルヲ以テ之ヲ市町村長ニ届出ツヘキモノトス(戸第一〇七條)

親権又ハ管理權ノ喪失ノ原因カ止ミタル時ハ裁判所ハ本人又ハ其ノ親族ノ請求ニ因リテ失權ノ宣告ヲ取消スコトヲ得(民第八九八條)此ノ場合ニ於テハ戸籍上ニ於テモ取消アリタルコトヲ明ニスル必要アルヲ以テ之ヲ届出ツヘキモノトス(戸第一〇八條)

第一項 届出期間

母カ親権又ハ管理權ヲ行フ旨ノ届出ハ親権又ハ管理權ノ喪失ノ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ爲スヘキモノトス(戸第一〇七條)失權宣告取消ノ届出モ亦其ノ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ爲スヘキモノトス(戸第一〇八條)

第二項 届出地

親権ニ關スル届出ニ付テハ特ニ届出地ノ定ナキヲ以テ届出ノ通則ニ從テ事件本入ノ本籍地又ハ届出入ノ所在地ニ届出ツヘキモノトス(戸第四三條)

第三項 届出義務者

父ノ失權宣告ニ因リテ母カ其ノ權利ヲ行フ場合ノ届出ハ常ニ母ヨリ爲スヘク(戸第一〇七條)失權宣告取消ノ届出ハ訴ヲ提起シタル者ヨリ之ヲ爲スヘキモノトス(戸第一〇八條)

第四項 届書ノ作製

父ノ失權宣告ニ因リテ母カ其ノ權利ヲ行フ場合ノ届書ノ記載事項ニ付テハ戸籍法第七七條ニ裁判確定ノ日ヲ記載スヘキコトヲ明定スルニ止マルモ届出通則ノ規定ニ依リテ一般ノ届書ニ記載スヘキ事項ハ總テ記載ヲ要スルハ勿論苟モ戸籍ノ記載ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナル事項ハ皆之ヲ記載スヘキモノトス而シテ其ノ事項ノ何モノナリヤハ次項書式ニ依リテ了知セラルヘシ尙ホ失權宣告取消ノ届出ニ付テモ同様トス

第五項 届書式

第一 母カ親権ヲ行フ場合

親権行使届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎孫

未成年ノ子

甲野智太郎

大正七年十月四日生

右智太郎父禮太郎大正八年九月七日親権喪失ノ裁判確定ニ因リ母梅子親権ヲ行フ  
右親権行使別紙裁判ノ謄本及判決確定證明書相添へ及御届候也

大正八年九月十二日

戸籍 届書申請書式 親権



届出人 母 甲 野 梅 子  
明治二十年八月八日生  
東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿  
備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

第二 母カ管理權ヲ行フ場合

管理權行使届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎孫  
未成年ノ子 甲 野 智 太 郎  
大正七年十月四日生  
右智太郎父禮太郎大正八年九月七日管理權喪失ノ裁判確定ニ因リ母梅子管理權ヲ行フ  
右管理權行使別紙裁判ノ謄本及判決確定證明書相添へ及御届候也  
大正八年九月二十日

届出人 母 甲 野 梅 子  
明治二十年八月八日生  
東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿  
備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

第三 親權喪失ノ取消アリタル場合

親權喪失取消届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎孫  
未成年ノ子 甲 野 智 太 郎  
大正七年十月四日生  
右智太郎父禮太郎大正九年十月十日親權喪失ノ宣告取消ノ裁判確定  
右親權喪失ノ宣告取消別紙裁判ノ謄本及判決確定證明書相添へ及御届候也  
大正九年十月十五日

本籍 東京市麴町區元園町四丁目八番地戸主  
届出人 禮太郎弟 乙 山 義 三 郎  
明治十五年八月九日生  
東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿  
備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ  
二 本例ハ本人ノ親族ヨリ取消ノ請求ヲ爲シタル場合ナリ

第四 管理權喪失ノ取消アリタル場合

管理權喪失取消届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎孫  
未成年ノ子 甲 野 智 太 郎  
大正七年十月四日生  
右智太郎父禮太郎大正九年十月十日管理權喪失ノ宣告取消ノ裁判確定  
右管理權喪失ノ宣告取消別紙裁判ノ謄本及判決確定證明書相添へ及御届候也  
大正九年十月十五日



届出人 父 甲野 禮 太 郎

明治十年五月五日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

備考

- 一 本例ニ依ル届書ハ一通チ差出スヘシ
- 二 本例ハ本人タル父ヨリ取消ノ請求ヲ爲シタル場合ナリ

第八款 後 見

後見ハ無能力者ノ身上又ハ財産上ノ保護ノ爲ニ設ケタルモノニシテ後見ノ開始スヘキ場合ハ左ノ如シ  
(民第九〇〇條)

- 一 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキ
- 二 禁治産ノ宣告アリタルトキ

以上ノ場合ニハ常ニ未成年者又ハ禁治産者ノ爲ニ後見人ヲ定ムヘキモノトス而シテ後見人ハ無能力者一人ニ付一人ヲ置ク(民第九〇六條)但シ一人ノ後見人ニシテ數人ノ無能力者ヲ後見人ヲ兼ヌルハ元ヨリ差  
少ナシ次ニ後見人ノ種類及後見人ヲ定ムル者ヲ説明スレハ(第一)未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者  
ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得(民第九〇一條)之ヲ指定後見人ト云フ(第二)親權ヲ行フ父又ハ  
母ハ何人ノ指定モ選定ヲモ俟タス當然禁治産者ノ後見人ト爲ル妻カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ當然  
夫後見人ト爲リ夫後見人タラサルトキハ親權者後見人ト爲ル夫カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ當然妻

後見人ト爲ル妻カ夫ノ後見人タラサルトキ又ハ夫カ未成年者ナルトキハ親權者後見人ト爲ル(民第九〇  
二條)(第三)第一、第二ニ依リテ後見人ト爲ル者アラサルトキハ戶主後見人ト爲ル(民第九〇三條)第二  
及第三ノ後見人ヲ法定後見人ト稱ス(第四)以上第一、第二、第三ノ後見人ナキトキハ親族會ニ於テ後見人  
ヲ選定スヘキモノトス(民第九〇四條)之ヲ選定後見人ト云フ  
次ニ後見人ト爲リ得ル爲ニハ法律上ノ缺格者ニ非サルコトヲ要ス即チ左ニ掲ケタル者ハ後見人ト爲ル資  
格ナシ(民第九〇八條)

- 一 未成年者
  - 二 禁治産者及準禁治産者
  - 三 剝奪公權者及停止公權者
  - 四 裁判所ニ於テ免黜セラレタル法定代理人又ハ保佐人
  - 五 破産者
  - 六 被後見人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及其ノ配偶者並直系血族
  - 七 行方ノ知レサル者
  - 八 裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘサル事跡、不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡アリト認メタル者
- 後見人ノ職務ノ主ナルモノヲ述フレハ(一)後見人ハ就職ノ始ニ於テ被後見人ノ財産調査ヲ爲ササルヘカ



ラス(民第九一七條)、(二)未成年者ノ後見人ハ大體ニ於テ前款ニ述ヘタル親權者ノ權利義務ト同様ノ權利義務ヲ有ス(民第九二一條)。(三)後見人ハ被後見人ノ財産ヲ管理シ又其ノ財産ニ關スル法律行為ニ付被後見人ヲ代表ス(民第九二三條)(四)被後見人カ戸主ナルトキハ後見人ハ之ニ代リテ戸主權ヲ行使シ又未成年者ニ代リテ親權ヲ行フ(民第九三四條)

此ノ如ク後見人ハ被後見人ノ行為ニ付テ代表ヲ爲スモノナルヲ以テ其ノ就職、更迭及後見ノ終了ハ之ヲ公示簿タル戸籍ノ上ニ於テ明ニスル必要アルカ故ニ戸籍法ニ於テハ此等ノ事項ノ届出ヲ要スルモノトセリ

**第一項 届出期間**

後見開始ノ届出ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲シ(戸第一〇九條)更迭ノ届出ハ後任後見人就職ノ日ヨリ十日内ニ爲シ(戸第一一〇條)後見終了ノ届出ハ終了ノ日ヨリ十日内ニ爲スヘキモノトス(戸第一一二條)

**第二項 届出地**

後見開始届、更迭届及終了届ハ共ニ被後見人ノ本籍地又ハ後見人ノ所在地ニ届出ツヘキモノトス(戸第一一三條)

**第三項 届出義務者**

後見開始届ハ後見人ヨリ、更迭届ハ後任者ヨリ、終了届ハ後見人ヨリ届出ツルモノトス(戸第一〇九條、

第一一〇條、第一一二條)

**第四項 届書ノ作製**

後見ニ關スル届出ハ既ニ述ヘタル如ク後見開始、後見人更迭、後見終了ノ三種アリ後見開始届ハ最初ノ後見人ヨリ爲スモノニシテ二度目以後ノ後見人ハ總テ更迭届ヲ爲スヘク、終了届ハ常ニ最後ノ後見人ヨリ爲スモノトス以下各場合ニ分テ届書ノ記載事項ヲ説明スヘシ

(一) 後見開始ノ場合

後見開始ノ届書ニハ通則ニ定メタル事項(第一節第三款)ノ外左ノ特別ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第一〇九條)

- 一 後見人及被後見人ノ氏名、出生ノ年月日及本籍
- 二 被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及本籍
- 三 後見開始ノ原因及年月日
- 四 後見人就職ノ年月日

(二) 後見人ノ更迭ノ場合

更迭ノ届書ニハ通則ニ定メタル一般ノ届書ニ記載スヘキ事項ノ外左ノ特別ノ事項ヲ記載スヘシ

(戸第一一〇條)

戸籍 届書申請書式 後見



- 一 後見人及被後見人ノ氏名、出生ノ年月日及本籍
- 二 被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及本籍
- 三 後見人就職ノ年月日

(三) 後見終了ノ場合

後見終了ノ原因ハ被後見人ニ付存スル場合ト後見人ニ付存スル場合トアリ後見人ニ付存スル場合  
 (例)ハ後見人カ死亡シ其ノ他前ニ述ヘタル後見人タルノ資格ヲ喪失シタルトキ又ハ辭任ノ如キ)  
 ハ常ニ後任ノ後見人アルヘキヲ以テ此ノ場合ハ前號ノ更迭届ヲ爲スヘキモノニシテ終了届ヲ爲ス  
 ヘキニ非ス而シテ終了ノ原因カ被後見人ノ側ニ存スルトキ(例)ハ被後見人カ成年ニ達シタルト  
 キノ如キ)ハ即チ本號ノ終了届ヲ爲スヘキモノトス換言スレハ終了届ハ後見ノ絶對的終了ノ場合  
 ニ限リテ爲スモノトス同シク終了ノ原因カ被後見人ニ付キ生シタル場合ニ於テモ例)ハ被後見人  
 カ死亡シタルトキノ如キハ死亡届ニ基キ被後見人ヲ除籍シタル以上ハ重ネテ後見終了ノ戸籍記載  
 ヲ爲スノ必要ナキヲ以テ終了届ヲ要セス尙被後見人カ婚姻縁組等ニ因リテ他家ニ入りタルカ爲ニ  
 後見力終了スル場合ノ如キハ任務終了ノ原因タル婚姻縁組等ノ届出ニ基キテ終了ノ戸籍記載ヲ爲  
 シ得ルヲ以テ別ニ終了ノ届出ヲ爲スニ及ハス  
 後見終了届書ニハ通則ニ依リテ記載スヘキ事項ノ外左ノ特別ナル事項ノ記載ヲ要ス(戸第一一二  
 條)

- 一 被後見人ノ氏名及本籍
- 二 任務終了ノ原因及年月日

第五項 届書式

第一 後見開始ノ場合

甲 法定後見人就職ノ場合

- 一 戸主後見人タル場合

後見開始届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎孫

被後見人

甲野智太郎

大正五年八月七日生

右智太郎ニ對シ大正八年九月七日親權ヲ行フ者ナキニ因リ後見開始同日後見人戸主甲野

義太郎就職

右後見開始及御届候也

大正八年九月十日

届出人

甲野義太郎

安政二年十月十日生

東京市麴町區長

雲井高輔殿

備考

- 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ
- 二 母方財産ノ管理ヲ辭シタルニ因リ戸主カ後見人ト爲ル場合ハ本書式中ノ親權

戸籍 届書申請書式 後見



戸籍 届書申請書式 後見

一九二

ナ行フ者ナキニ因リトアルナニ親權ヲ行フ母財産ノ管理ヲ辭シタルニ因リト改ムヘシ

二 親權者カ禁治産者タル子ノ後見人タル場合

後見開始届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥  
甲野 信太郎  
明治三十五年八月十日生

右信太郎ニ對シ大正八年九月七日禁治産宣告ニ因リ後見開始同日後見人父甲野忠二郎就職

右後見開始別紙裁判ノ謄本相添へ及御届候也  
大正八年九月十五日

届出人 戸主義太郎弟 甲野 忠二郎  
明治元年十月七日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔殿

備考

- 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ
- 二 母カ後見人ト爲ル場合ニ於テハ本例中父ノ氏名ヲ母ノ氏名ニ改ムルヲ以テ足ル
- 三 添附書類タル裁判ノ謄本トハ禁治産宣告ノ裁判ノ謄本ナリ

三 夫カ禁治産者タル妻ノ後見人タル場合

後見開始届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎婦  
甲野 梅子  
明治二十五年八月七日生

右梅子ニ對シ大正八年九月七日禁治産宣告ニ因リ後見開始同日後見人夫甲野禮太郎就職  
右後見開始別紙裁判ノ謄本相添へ及御届候也  
大正八年九月十五日

届出人 戸主義太郎長男 甲野 禮太郎  
明治十五年二月四日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔殿

備考

- 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ
- 二 夫カ後見人タラサル場合ニ於テ妻ニ親權者アルトキハ親權者ヨリ二ノ書式ニ依リ届出ヲ爲スヘシ

四 妻カ禁治産者タル夫ノ後見人タル場合

後見開始届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎長男  
甲野 禮太郎  
明治十五年二月四日生

戸籍 届書申請書式 後見

一九三



戸籍 届書申請書式 後見

一九四

右禮太郎ニ對シ大正八年九月七日禁治産宣告ニ因リ後見開始同日後見人妻甲野梅子就職  
右後見開始別紙裁判ノ謄本相添へ及御届候也  
大正八年九月十五日

届出人 戸主義太郎 妻 甲野梅子  
明治二十五年八月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ  
二 妻カ後見人タラサルトキ又ハ夫カ未成年者ナルトキ夫ニ親權者アルトキハ二ノ書式ニ依リ其ノ親權者ヨリ届出ヲ爲スヘキモノトス

乙 指定後見人就職ノ場合

後見開始届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎孫 甲野智太郎  
大正五年八月七日生

被後見人 右智太郎ニ對シ大正八年九月七日親權ヲ行フ者ナキニ因リ後見開始同日後見人千葉縣千葉郡千葉町一番地戸主丙山高之助就職  
右後見開始別紙指定ニ關スル遺言ノ謄本相添へ及御届候也  
大正八年九月十五日

届出人 丙山高之助  
明治元年七月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ  
二 指定後見人就職ノ日ハ遺言者死亡ノ日ヲ記載スヘキモノトス  
三 參考トシテ左ニ後見人指定遺言書式ヲ示ス但シ本例ハ普通方式ノ一タル自筆證書ナリ

後見人指定遺言書(其ノ一)

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎孫 未成年ノ子 甲野智太郎  
大正五年八月七日生

右智太郎ノ爲左記ノ者ヲ後見人ニ指定ス  
本籍 千葉縣千葉郡千葉町一番地戸主 後見人 丙山高之助  
明治元年七月七日生

大正八年一月十日

智太郎ニ對シ親權ヲ行フ母 甲野梅子

後見人指定遺言書(其ノ二)

戸籍 届書申請書式 後見

一九五



本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎孫  
 未成年ノ子 甲野智太郎  
 大正五年八月七日生

右智太郎母甲野梅子拙者ノ生前ニ於テ豫メ財産ノ管理ヲ辭シタルニ因リ右智太郎ノ爲左記ノ者ヲ後見人ニ指定ス

大正八年一月十日

智太郎ニ對シ親權ヲ行フ父

甲野禮太郎

備考 後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ同時ニ後見監督人及親族會員ヲ指定スルコトヲ得ルモノトス此ノ場合本書式後見人ノ次ニ監督人親族會員ノ氏名、本籍年齢等ヲ後見人ノ例ニ依リ連記スルモ可ナリ

丙 選定後見人就職權ノ場合

一 親權者ナキニ至リタルニ因リ後見開始ノ場合

後見開始届

被後見人

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

甲野智太郎  
大正五年八月七日生

右智太郎ニ對シ大正八年九月七日親權ヲ行フ者ナキニ因リ後見開始同月二十日後見人千葉縣千葉郡千葉町一番地戸主丙山高之助就職

右後見開始別紙選任ヲ證スル書面及親族會員選定ノ裁判ノ謄本相添へ及御届候也

大正八年九月二十五日

届出人

丙山高之助

明治元年七月七日生

千葉縣千葉郡千葉町長 波川保吉殿

- 備考 一 本例ハ後見人ノ所在地タル本籍地ニ届出ツル場合ナルヲ以テ届書二通ヲ差出スヘシ
- 二 選定後見人就職ノ日ハ親族會ニ於テ選定ヲ爲シタル日ヲ記載スヘシ
- 三 参考ノ爲届書ニ添附スヘキ親族會ノ後見人選任ヲ證スル書面ノ書式ヲ左ニ示ス
- 四 司法省戶籍寄留先例全集三一五號、六七八號參照

後見人選任證明書

被後見人

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

甲野智太郎  
大正五年八月七日生

後見人

本籍 千葉縣千葉郡千葉町一番地戸主

丙山之助  
明治元年七月七日生



前記甲野智太郎ニ對スル後見人選任ノ親族會ハ大正八年九月二十日ノ決議ニ依リ前記丙山高之助ヲ後見人ニ選任シタルコトヲ證明ス  
大正八年九月二十四日

- 本籍 東京市麴町區元園町三丁目一番地 親族會員 乙野忠太郎
- 本籍 東京市麴町區平河町一丁目六番地 親族會員 丙川信太郎
- 本籍 千葉縣千葉郡千葉町五番地 親族會員 乙川孝輔

二 母カ財産ノ管理ヲ辭シタルニ因リ後見開始ノ場合

後見開始届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

被後見人

右智太郎ニ對シ大正八年九月七日親權ヲ行フ母財産ノ管理ヲ辭シタルニ因リ後見開始同月二十日後見人千葉縣千葉郡千葉町一番地戸主丙山高之助就職  
大正五年八月七日生  
右後見開始別紙選任ヲ證スル書面及親族會員選定ノ裁判ノ謄本相添へ及御届候也  
大正八年九月二十五日

届出人 丙山高之助

明治元年七月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 一 本例ハ被後見人ノ本籍地ニ届出ツル場合ナルニ付届書一通ヲ差出スヘシ  
二 前號備考參照

第二 後見人更迭ノ場合

一 前任後見人ノ辭任ニ因ル更迭ノ場合

後見人更迭届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

甲野智太郎

大正九年十月十八日後見人丙山高之助辭任同月三十日東京市麴町區平河町一丁目一番地戸主乙野乙次郎就職ニ付キ更迭  
大正五年八月七日生  
右後見人更迭別紙選任ヲ證スル書面及親族會員選定ノ裁判ノ謄本相添へ及御届候也  
大正九年十一月二日

届出人 乙野乙次郎

明治二十年九月十一日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ  
二 第一ノ丙ノ一ノ備考二、三、四參照



三 後見人更迭ノ場合屆書ニ前任者ノ氏名ヲ記載セシムルノ必要ナキモ戶籍ノ記載ヲ明瞭ナラシムル爲之ヲ記載スルヲ便トス(司法省戶籍寄留先例全集六八五號參照)

二 前任後見人ノ死亡ニ因ル更迭ノ場合

後見人更迭届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戶主

甲 野 智 太 郎

大正五年八月七日生

大正九年十月十八日後見人丙山高之助死亡同月三十日東京市麴町區平河町一丁目一番地

戶主乙野乙次郎就職ニ付キ更迭

右後見人更迭別紙選任ヲ證スル書面及親族會員選定ノ裁判ノ謄本相添へ及御届候也

大正九年十一月二日

届出人

乙 野 乙 次 郎 印

明治二十年九月十一日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

備考 一 本例ニ依ル屆書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 第一ノ丙ノ一ノ備考二、三、四及前號備考三參照

三 前任後見人ノ資格喪失ニ因ル更迭ノ場合

後見人更迭届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戶主

甲 野 智 太 郎

大正五年八月七日生

大正九年十月十八日後見人丙山高之助破産宣告同月三十日東京市麴町區平河町一丁目一番地

番地戶主乙野乙次郎就職ニ付キ更迭

右後見人更迭別紙選任ヲ證スル書面及親族會員選定ノ裁判ノ謄本相添へ及御届候也

大正九年十一月二日

届出人

乙 野 乙 次 郎 印

明治二十年九月十一日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

備考 一 本例ニ依ル屆書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 第一ノ丙ノ一ノ備考二、三、四及第二ノ一ノ備考三參照

四 前任後見人ノ免黜ニ因ル更迭ノ場合

後見人更迭届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戶主

甲 野 智 太 郎

大正五年八月七日生

大正九年十月十八日後見人丙山高之助免黜同月三十日東京市麴町區平河町一丁目一番地

被後見人



戸籍 届書申請書式 後見

11011

戸主乙野乙次郎就職ニ付キ更迭  
右後見人更迭別紙選任ヲ證スル書面及親族會員選定ノ裁判ノ謄本相添ヘ及御届候也  
大正九年十一月二日

届出人

乙野 乙次郎 ㊦  
明治二十年九月十一日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 第一ノ丙ノ一ノ備考二、三、四及第二ノ一ノ備考三参照

五 戸主ノ更替ニ因ル更迭ノ場合

後見人更迭届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義二郎甥

被後見人

甲野 智太郎

大正五年八月七日生

大正九年十月十八日後見人甲野義太郎死亡(隠居等相續開始ノ原因ヲ記載スルコト)同日  
戸主甲野義二郎就職ニ付キ更迭  
右後見人更迭及御届候也  
大正九年十月二十二日

届出人

甲野 義二郎 ㊦  
明治二年四月七日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

六 禁治産者ノ後見人タル父母カ死亡シ又ハ家ヲ去リタルニ因ル更迭ノ場合

イ 父ノ死亡ニ因リ母後見人タル場合

後見人更迭届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥

被後見人

甲野 信太郎

明治三十五年八月十日生

大正九年十月十八日後見人父甲野忠二郎死亡同日母甲野秋子就職ニ付キ更迭  
右後見人更迭及御届候也  
大正九年十月二十二日

届出人

戸主義太郎 婦

甲野 秋子 ㊦  
明治十年九月十日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

ロ 母ノ死亡ニ因リ戸主後見人タル場合

後見人更迭届

戸籍 届書申請書式 後見

11011



戸籍 届書申請書式 後見

二〇四

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥  
被後見人 甲野信太郎  
明治三十五年八月十日生

右後見人更迭及御届候也  
大正九年十月十八日後見人母甲野秋子死亡同日戸主甲野義太郎就職ニ付キ更迭  
大正九年十月二十二日  
届出人 甲野義太郎  
安政二年十月十日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿  
備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

ハ 母ノ去家ニ因リ戸主後見人タル場合

後見人更迭届  
本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥  
被後見人 甲野信太郎  
明治三十五年八月十日生

右後見人更迭及御届候也  
大正九年十月十八日後見人母甲野秋子去家同日戸主甲野義太郎就職ニ付キ更迭  
大正九年十月二十二日  
届出人 甲野義太郎  
安政二年十月十日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ  
二 父ノ去家ニ因リテ母後見人タル場合ハ(イ)ノ書式中「甲野忠二郎死亡」トアル  
ヲ「甲野忠二郎去家」ニ改ムレハ可ナリ

七 禁治産者タル夫ノ後見人タル妻カ離婚ヲ爲シタルニ因ル更迭ノ場合

イ 夫ノ親權者タル父又ハ母カ後見人タル場合  
後見人更迭届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥  
被後見人 甲野信太郎  
明治三十年七月七日生

右後見人更迭及御届候也  
大正九年十月十八日後見人妻甲野花子離婚同日父甲野義二郎就職ニ付キ更迭  
大正九年十月二十二日  
届出人 甲野義二郎  
明治元年九月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ  
二 母後見人タルトキハ本書式中前文「父甲野義二郎」ヲ「母甲野秋子」ニ届出人ノ

戸籍 届書申請書式 後見

二〇五



項ナ「戸主義太 甲野秋子」ニ改ムヘシ  
郎弟ノ妻

□ 親権者ナキ爲戸主後見人タル場合

後見人更迭届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥  
甲野信太郎  
明治三十年七月七日生

大正九年十月十八日後見人妻甲野花子離婚同日戸主甲野義太郎就職ニ付キ更迭  
右後見人更迭及御届候也  
大正九年十月二十二日

届出人

甲野義太郎  
安政二年九月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿  
備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

八 前任後見人カ後見開始届ヲ爲サシテ死亡シタル場合ノ届出

前任後見人カ後見開始届ヲ爲サシテ死亡シタル爲後見人ノ更迭アリタル場合ニ於テハ後任後見人ヨリ後見開始届及更迭届ヲ爲スヘキモノトス(司法省戸籍寄留先例全集六八八號参照)今左ニ此ノ場合ニ於ケル開始届及更迭届ノ書式ヲ示サン

イ 後任後見人ヨリ爲ス後見開始届

後見開始届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義二郎甥  
被後見人 甲野智太郎  
大正五年八月七日生

右智太郎ニ對シ大正八年九月七日親權ヲ行フ者ナキニ因リ後見開始同日後見人前戸主甲野義太郎就職其届出ヲ爲サシテ死亡  
右後見開始及御届候也  
大正八年十一月二十三日

届出人

後任後見人見 甲野義二郎  
明治三年四月八日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿  
備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

□ 後任後見人ヨリ爲ス更迭届

此ノ場合ノ届書ハ第二ノ五ノ例ニ依リ之ヲ作製スルコトヲ得ヘキニ付之ヲ略ス

第三 後見終了ノ場合

一 被後見人カ成年ニ達シタルニ因ル終了ノ場合

(イ) 後見人カ戸主ナル場合

戸籍 届書申請書式 後見



後見終了届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎孫  
甲野智太郎  
大正五年八月七日生

右後見終了及御届候也  
大正二十五年八月十日

届出人 後見人 甲野義太郎  
安政二年十月十日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

(ロ) 選定後見人ナル場合

後見終了届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主  
甲野智太郎  
大正五年八月七日生

右後見終了及御届候也  
大正二十五年八月十日

大正二十五年八月十日

本籍 東京市麴町區元園町一丁目一番地戸主

届出人 後見人 丙山高之助  
明治元年七月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 指定後見人ノ場合モ本例ニ準シ容易ニ之ヲ作製シ得ヘキニ付之ヲ略ス

二 禁治産宣告ノ取消アリタルニ因ル終了ノ場合

(イ) 親権者カ子ノ後見入タル場合

後見終了届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥  
甲野信太郎  
明治三十五年八月十日生

右後見終了別紙裁判ノ謄本相添へ及御届候也  
大正十年八月十五日

届出人

後見人 戸主義太郎  
弟信太郎父 甲野忠二郎  
明治元年十月七日生



東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

(ロ) 夫カ妻ノ後見人タル場合

後見終了届

被後見人

本 籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎婦

甲 野 梅 子

明治二十五年八月七日生

右後見終了別紙裁判ノ謄本相添ヘ及御届候也

大正十年八月十五日

届出人

後見人 戸主義太郎 長男梅子夫

甲 野 禮 太 郎 殿

明治十五年二月四日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

備考

一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 妻カ夫ノ後見人タル場合ハ届書モ本例ニ準シ容易ニ之ヲ作製シ得ヘキニ付之ヲ略ス

### 第九款 保 佐

保佐ハ準禁治産者ノ保護ノ爲メニ設ケタルモノトス而シテ準禁治産ハ心神耗弱者、聾者、啞者、盲者又ハ浪費者ニ付裁判所ニ於テ宣告ヲ爲シ其ノ宣告ヲ受ケタル者ニハ保佐人ヲ附ス(民第七條、第十一條)即チ保佐ノ開始スル原因ハ準禁治産ノ宣告ナリトス

保佐人ノ選任、資格等ハ總テ後見人ノ場合ト同様ナルヲ以テ茲ニ再説セサルヘシ唯保佐人ノ權限ハ後見人ト異リ準禁治産者ノ爲ス一定ノ行爲ニ付同意ヲ與フルニ過キサルモノトス而シテ保佐ニ關スル届出ヲ爲サシムルハ被保佐人カ準禁治産者ナルコトヲ公示シ之ヲ保護スルト同時ニ之ト法律行爲ヲ爲ス第三者ヲ保護センカ爲ナリトス

今左ニ保佐人ノ同意ヲ要スル行爲ヲ列舉セン(民第二二條)

- 一 元本ヲ領收シ又ハ之ヲ利用スルコト
- 二 借財又ハ保證ヲ爲スコト
- 三 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト
- 四 訴訟行爲ヲ爲スコト
- 五 贈與、和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト
- 六 相續ヲ承認シ又之ヲ拋棄スルコト
- 七 贈與若ハ遺贈ヲ拒絶シ又ハ負擔附ノ贈與若ハ遺贈ヲ受諾スルコト
- 八 新築、改築、増築又ハ大修繕ヲ爲スコト



九 民法第六百二條ニ定メタル期間ヲ超ユル貸借ヲ爲スコト

第一項 届出期間

保佐ニ付テハ戸籍法ニ於テ總テ後見 關スル規定ヲ準用スルコトト爲セルヲ以テ(戸第一一四條)保佐ノ開始ハ就職ノ日ヨリ、保佐人ノ更迭ハ后任者就職ノ日ヨリ、保佐ノ終了ハ終了ノ日ヨリ十日内ニ届出ルモノトス

第二項 届出地

届出地モ亦後見ト同様ニ準禁治産者ノ本籍地又ハ保佐人ノ所在地ニ爲スモノトス

第三項 届出義務者

保佐ノ開始及終了ハ保佐人ヨリ届出テ、保佐人ノ更迭ハ後任ノ保佐人ヨリ届出ツルモノトス

第四項 届書ノ作製

(一) 保佐開始ノ場合

- 一 保佐開始ノ届書ニハ總則ニ定メタル事項(第一節第三款)ノ外左ノ特別事項ヲ記載スルヲ要ス
- 二 保佐人及準禁治産者ノ氏名、出生ノ年月日及本籍
- 三 準禁治産者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及本籍
- 四 保佐開始ノ原因及年月日

(二) 保佐人更迭ノ場合

保佐人ノ任務ノ終了カ保佐人ノ死亡、辭任等保佐人ニ付テ生シタル時ハ後任ノ保佐人ヨリ常ニ更迭届ヲ爲スヘキコトハ後見人更迭ノ場合ト同様トス即チ更迭ノ届書ニハ届出通則ニ定タル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘキモノトス

- 一 保佐人及準禁治産者ノ氏名、出生ノ年月日及本籍
- 二 準禁治産者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及本籍
- 三 保佐人就職ノ年月日

(三) 保佐終了ノ場合

- 一 保佐終了届ニハ後見終了届ト同様ニ左ノ特別事項ヲ記載スヘキモノトス
- 二 準禁治産者ノ氏名及本籍
- 三 保佐終了ノ原因及年月日

第五項 届書式

第一 保佐開始ノ場合

甲 法定保佐人就職ノ場合

- 一 戸主保佐人ナル場合

戸籍 届書申請書式 保佐



保佐開始届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎孫  
甲野智太郎  
明治三十年七月十日生

右智太郎ニ對シ大正八年九月七日準禁治産宣告ニ因リ保佐開始同日保佐人戸主甲野義太郎就職

右保佐開始及御届候也  
大正八年九月十日

届出人

甲野義太郎  
安政二年十月十日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 戸主カ保佐人タルハ準禁治産者ニ親権者ナキ場合ナリ

二 親権者カ保佐人ナル場合

保佐開始届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥  
甲野信太郎  
明治三十年五月七日生

右信太郎ニ對シ大正八年九月七日準禁治産宣告ニ因リ保佐開始同日保佐人父甲野忠二郎

就職

右保佐開始別紙裁判ノ謄本相添へ及御届候也

大正八年九月十五日

届出人

戸主義太郎弟 甲野忠二郎  
明治元年十月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 母カ保佐人ナル場合ニ於テハ本書式中父ノ氏名ヲ母ノ氏名ニ改ムルヲ以テ是

三 添附書類タル裁判ノ謄本ハ準禁治産宣告ノ裁判ノ謄本ナリ

三 夫カ準禁治産者タル妻ノ保佐人タル場合

保佐開始届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎婦  
甲野梅子  
明治二十五年八月七日生

右梅子ニ對シ大正八年九月七日準禁治産宣告ニ因リ保佐開始同日保佐人夫甲野禮太郎就職

右後見開始別紙裁判ノ謄本相添へ及御届候也  
大正八年九月十五日



届出人 戸主義太郎 甲 野 禮 太郎 明治十五年二月四日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ  
 二 夫カ保佐人タラサル場合ニ於テ妻ニ親権者アルトキハ親権者ヨリ二ノ書式ニ依リ届出ヲ爲スヘシ

四 妻カ準禁治産者タル夫ノ保佐人ナル場合

保佐開始届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎長男

被保佐人 甲 野 禮 太郎 明治十五年二月四日生

右禮太郎ニ對シ大正八年九月七日準禁治産宣告ニ因リ保佐開始同日保佐人妻甲野梅子就職

右保佐開始別紙裁判ノ謄本相添へ及御届候也

大正八年九月十五日

届出人 戸主義太郎 甲 野 梅 子 明治二十五年八月七日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ  
 二 妻カ保佐人タラサルトキ又ハ夫カ未成年者ナルトキ夫ニ親権者アルトキハ二ノ書式ニ依リ其ノ親権者ヨリ届出ヲ爲スヘシ

乙 選定保佐人就職ノ場合

保佐開始届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

被保佐人 甲 野 智 太郎 明治三十年九月九日生

右智太郎ニ對シ大正八年九月七日準禁治産宣告ニ因リ保佐開始同日保佐人千葉千葉郡千葉町一番地戸主丙山高之助就職

右保佐開始別紙選任ヲ證スル書面及親族會員選定ノ裁判ノ謄本相添へ及御届候也

大正八年九月二十五日

届出人 丙 山 高 之 助 明治元年七月七日生

千葉縣千葉郡千葉町長 波 川 保 吉殿

備考 一 本例ハ保佐人ノ所在地タル本籍地ニ届出ツル場合ナルニ付届書二通ヲ差出スヘシ

二 選定保佐人就職ノ日ハ親族會ニ於テ選定ヲ爲シタル日ヲ記載スヘシ  
 三 第八款第五項第一丙參照

第二 保佐人更迭ノ場合

戸籍 届書申請書式 保佐



一 前任保佐人ノ辭任ニ因ル更迭ノ場合

保佐人更迭届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主  
被保佐人 甲 野 智 太 郎

明治三十年九月九日生

大正九年十月十八日保佐人丙山高之助辭任同月三十日東京市麴町區平河町一丁目一番地  
戸主乙野乙次郎就職ニ付キ更迭

右保佐人更迭別紙選任ヲ證スル書面及親族會員選定ノ裁判ノ謄本相添へ及御届候也  
大正九年十一月二日

届出人

乙 野 乙 次 郎 ㊦  
明治二十年九月十一日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 前任保佐人ノ死亡ニ因ル更迭ノ場合

保佐人更迭届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主  
被保佐人 甲 野 智 太 郎

明治三十年九月九日生

大正九年十月十八日保佐人丙山高之助死亡同月三十日東京市麴町區平河町一丁目一番地  
戸主乙野乙次郎就職ニ付キ更迭

右保佐人更迭別紙選任ヲ證スル書面及親族會員選定ノ裁判ノ謄本相添へ及御届候也  
大正九年十一月二日

届出人

乙 野 乙 次 郎 ㊦  
明治二十年九月十一日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

三 前任保佐人ノ資格喪失ニ因ル更迭ノ場合

保佐人更迭届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主  
被保佐人 甲 野 智 太 郎

明治三十年九月九日生

大正九年十月十八日保佐人丙山高之助破産宣告同月三十日東京市麴町區平河町一丁目一  
番地戸主乙野乙次郎就職ニ付キ更迭

右保佐人更迭別紙選任ヲ證スル書面及親族會員選定ノ裁判ノ謄本相添へ及御届候也  
大正九年十一月二日

届出人

乙 野 乙 次 郎 ㊦  
明治二十年九月十八日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

戸籍 届書申請書式 保佐



戸籍 届書申請書式 保佐

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

1110

四 戸主ノ更替ニ因ル更迭ノ場合

保佐人更迭届

被保佐人

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義二郎甥

甲野智太郎

明治三十年九月九日生

大正九年十月十八日保佐人甲野義太郎死亡(隠居等相續開始ノ原因ヲ記載スルコト)同日  
戸主甲野義二郎就職ニ付キ更迭  
右保佐人更迭及御届候也

大正九年十月二十二日

届出人

甲野義二郎

明治二年四月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

五 準禁治産者ノ保佐人タル父母カ死亡シ又ハ家ヲ去リタルニ因ル更迭ノ場合

イ 父ノ死亡ニ因リ母保佐人タル場合

保佐人更迭届

被保佐人

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥

甲野信太郎

明治三十年八月十日生

大正九年十月十八日保佐人父甲野忠二郎死亡同日母甲野秋子就職ニ付キ更迭  
右保佐人更迭及御届候也

大正九年十月二十二日

届出人

戸主義太郎婦 甲野秋子

明治十年九月十日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

ロ 母ノ死亡ニ因リ戸主保佐人タル場合

保佐人更迭届

被保佐人

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥

甲野信太郎

明治三十年八月十日生

大正九年十月十八日保佐人母甲野秋子死亡同日戸主甲野義太郎就職ニ付キ更迭  
右保佐人更迭及御届候也

大正九年十月二十二日

届出人

甲野義太郎

戸籍 届書申請書式 保佐

1111



戸籍 届書申請書式 保佐

二二二

東京市麴町區長 雲 井 高 輔殿

安政二年十月十日生

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

ハ 母ノ去家ニ因リ戸主保佐人タル場合

保佐人更迭届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥

被保佐人

甲野 信 太郎

明治三十年八月十日生

大正九年十月十八日保佐人母甲野秋子去家同日戸主甲野義太郎就職ニ付キ更迭

右保佐人更迭及御届候也

大正九年十月二十二日

届出人

甲野 義 太郎

安政二年十月十日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔殿

備考

一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 父ノ去家ニ因リテ母保佐人タル場合ハ(イ)ノ書式中「甲野忠二郎死亡」トアルヲ「甲野忠二郎去家」ニ改ムヘシ

六 準禁治産者タル夫ノ保佐人タル妻カ離婚ヲ爲シタルニ因ル更迭ノ場合

イ 夫ノ親權者タル父母カ保佐人タル場合

保佐人更迭届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥

被保佐人

甲野 信 太郎

明治三十年七月七日生

大正九年十月十八日保佐人妻甲野花子離婚同日父甲野義二郎就職ニ付キ更迭

右保佐人更迭及御届候也

届出人

甲野 義 二郎

明治元年九月七日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔殿

備考

一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 母保佐人タルトキハ本書式中前文「父甲野義二郎」ヲ「母甲野秋子」ニ届出人ノ項ヲ「戸主義太郎妻甲野秋子」ニ改ムヘシ

ロ 親權者ナキ爲戸主保佐人タル場合

保佐人更迭届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥

被保佐人

甲野 信 太郎

戸籍 届書申請書式 保佐

二二三



大正九年十月十八日保佐人妻甲野花子離婚同日戸主甲野義太郎就職ニ付キ更迭  
右保佐人更迭及御届候也  
大正九年十月二十二日  
明治三十年七月七日生

届出人

甲野義太郎  
安政二年九月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿  
備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

第三 保佐終了ノ場合

一 保佐人カ戸主ナル場合

保佐終了届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎孫

被保佐人

甲野智太郎

右智太郎ニ對シ大正十年八月十日準禁治産宣告ノ取消アリタルニ付キ保佐終了  
右保佐終了別紙裁判ノ謄本相添へ及御届候也  
大正十年八月十五日  
明治三十年五月七日生

届出人

保佐人 甲野義太郎  
安政二年十月十日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 選定保佐人ナル場合

保佐終了届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

被保佐人

甲野智太郎

右智太郎ニ對シ大正十年八月十日準禁治産宣告ノ取消アリタルニ付キ保佐終了  
右保佐終了別紙裁判ノ謄本相添へ及御届候也  
大正十年八月十五日  
明治三十年五月七日生

本籍

東京市麴町區元園町一丁目一番地戸主

届出人

保佐人 丙山高之助  
明治元年七月七日

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

三 親權者カ子ノ保佐人タル場合

保佐終了届

戸籍 届書申請書式 保佐



戸籍 届書申請書式 保佐

二二六

被保佐人

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎男

甲野信太郎

明治三十年八月十日生

右保佐終了別紙裁判ノ謄本相添へ及御届候也

大正十年八月十五日

届出人

保佐人 戸主義太郎  
弟信太郎父

甲野忠二郎

明治元年十月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

夫カ妻ノ保佐人タル場合

保佐終了届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎男

甲野梅子

明治二十五年八月七日生

右保佐終了別紙裁判ノ謄本相添へ及御届候也

大正十年八月十五日

届出人

保佐人 戸主義太郎  
長男梅子夫

甲野禮太郎

明治十五年二月四日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考

一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ  
二 妻カ夫ノ保佐人タル場合ノ届書モ本例ニ準シ容易ニ之ヲ作製シ得ヘキニ付之ヲ略ス

### 第十款 隠居

隠居トハ戸主カ其ノ意思ニ基キテ戸主權ヲ失ヒ戸主タル地位ヲ退クノ行爲ナリ而モ漫ニ戸主タル地位ヲ退カシムルハ家族制度ノ精神ニ反スルヲ以テ民法ハ隠居ヲ爲スニ付テ一定ノ條件ヲ具備スルコトヲ必要トセリ即チ一般ニ自由ニ隠居ヲ爲シ得ルニハ左ノ條件ヲ要ス(民第七五二條)

一 滿六十年以上ナルコト

二 完全ノ能力ヲ有スル家督相續人カ相續ノ單純承認ヲ爲スコト

即チ隠居ヲ爲スハ實際老齡ニ達シテ戸主權ヲ行フノ困難アリ且戸主ヲ退クモ適當ノ相續人アリテ戸主權運用上差支ナキ場合トス但シ女子ハ男子ニ比シ家政ヲ執ルニ適セサル事情ナキニ非サルヲ以テ在齡ニ拘ハラズ隠居ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(民第七五五條)但シ相續人ニ關スル條件ノ必要ナルハ勿論トス前二條件ヲ具備セストモ實際戸主カ疾病、本家ノ相續又ハ再興其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リテ家政ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲スコトヲ得ルモノトス此ノ場合假令已

戸籍 届書申請書式 隠居

二二七



ムヲ得サル事情ニ基クトモ隠居ノ爲ニ家ヲ絶ツヘキニ非サルヲ以テ法定ノ推定家督相続人ナキトキハ豫メ家督相続人ヲ定メテ其ノ承認ヲ得ヘキモノトス(民第七五三條)戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラントスル場合ニ於テモ同ク裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(民第七五四條)蓋婚姻ヲ重ンスルノ趣旨ニ出テタルモノトス

隠居ヲ爲スニハ無能力者ト雖其ノ法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス(民第七五六條)蓋隠居ハ専ラ本人ノ自由意思ニ基クテ要スルカ故ナリ從テ意思能力ナキ者ハ隠居ヲ爲スコトヲ得サルモノトス唯有夫ノ女戸主カ隠居ヲ爲ス場合ニハ夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモ夫ハ正當ノ理由ナキ限り之ヲ拒ムコトヲ得ス(民第七五五條)

第一項 届出期間

隠居ハ届出ニ因リテ其ノ效力ヲ生スル行爲ナルヲ以テ届出期間ノ定ナシ(民第七五七條)

第二項 届出地

隠居ノ届出ハ届出通則ノ規定ニ從テ隠居者ノ本籍地又ハ所在地ノ市町村長ニ爲スヘキモノトス(戸第四三條)

第三項 届出人

隠居ノ届出ハ必ス隠居者及家督相続人ヨリ之ヲ爲スヘキモノトス(民第七五七條)

第四項 届書ノ作製

隠居ノ届書ニハ届出通則ニ定メタル一般ノ事項ノ外隠居ニ特別ナル左ノ事項ヲ記載スヘキモノトス(戸第一一五條)

- 一 隠居者ノ氏名、出生ノ年月日及本籍
- 二 家督相続人ノ氏名、出生ノ年月日並本籍及家督相続人ト隠居者トノ續柄
- 三 隠居ノ原因

第五項 届書式

第一裁判所ノ許可ヲ得スシテ隠居ヲ得シ得ル場合

- 一 年齢六十歳以上ノ男戸主カ完全ノ能力ヲ有スル家督相続人ノ單純承認ヲ得テ隠居ヲ爲ス場合
- イ 相続人カ法定ノ推定家督相続人ナル場合

隠居届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主 甲野義太郎

安政元年七月十日生

家督相続人 戸主義太郎 長男 禮太郎



右義太郎滿六十年以上ニ付キ隠居  
右隠居及御届候也

大正九年十月十五日

届出人

甲野義太郎  
甲野禮太郎

東京市麴町區長 雲井高輔殿

右義太郎隠居ニ付キ家督相續ヲ單純承認致候

甲野禮太郎

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 相續人ハ別ニ家督相續届ヲ差出スコトヲ要ス其ノ書式ハ家督相續ノ項ニ依リテ了解セラルヘシ

相續人カ指定家督相續人ナル場合

A 指定家督相續人カ自家ノ家族ナル場合

隠居届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

隠居者

甲野義太郎  
安政元年七月十日生

指定家督相續人 戸主義太郎弟

禮二郎

右義太郎滿六十年以上ニ付キ隠居

右隠居及御届候也

大正九年十月十五日

明治元年十月二十日生

届出人

甲野義太郎  
甲野禮二郎

東京市麴町區長 雲井高輔殿

右義太郎隠居ニ付キ家督相續ヲ單純承認致候

指定家督相續人 甲野禮二郎

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 隠居届出ニ先チ家督相續人ノ指定届出チ爲スコトヲ要ス

B 指定家督相續人カ他家ノ家族ナル場合

隠居届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

隠居者

甲野義太郎  
安政元年七月十日生



本籍 東京市麴町區元園町一丁目一番地戸主乙川孝輔二男  
指定家督相續人 乙川孝二郎  
明治十年八月八日生

右義太郎滿六十年以上ニ付キ隠居  
右隠居及御届候也

大正九年十月十五日

届出人

甲 野義太郎  
乙 川孝二郎

東京市麴町區長 雲井高輔殿  
右義太郎隠居ニ付キ家督相續ヲ單純承認致候

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ  
二 指定家督相續人カ隠居者ノ親族ナルトキハ△ノ例ニ依リ相續人ノ冒頭ニ隠居者トノ續柄ヲ記載スヘシ

二 年齢六十年未滿ノ女戸主カ完全ノ能力ヲ有スル家督相續人ノ單純承認ヲ得テ隠居ヲ爲ス場合  
イ 相續人カ法定ノ推定家督相續人ナル場合

隠居届

隠居者

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

甲 野松子

明治十年九月九日生

家督相續人 戸主松子長男

禮二郎

明治三十年七月十日生

右松子女戸主ニ付キ隠居  
右隠居及御届候也

大正九年十月十五日

届出人

甲 野松子  
甲 野禮二郎

東京市麴町區長 雲井高輔殿

右松子隠居ニ付キ家督相續ヲ單純承認致候

家督相續人

甲 野禮二郎

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

相續人カ指定家督相續人ナル場合

A 指定家督相續人カ自家ノ家族ナル場合

隠居届



隠居者

指定家督相續人 戸主松 子弟

明治十五年五月五日生

禮二郎

明治十年九月九日生

甲 野 松 子

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

右松子女戸主ニ付キ隠居  
右隠居及御届候也

大正九年十月十五日

届出人

甲 野 松 子

甲 野 禮 二 郎

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

右松子隠居ニ付キ家督相續ヲ單純承認致候

指定家督相續人 甲 野 禮 二 郎

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

B 指定家督相續人カ他家ノ家族ナル場合

隠居届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

隠居者

甲 野 松 子

明治十年九月九日生

本籍 東京市麴町區元園町一丁目一番地戸主乙川孝輔二男

乙 川 孝 二 郎

明治十五年八月八日生

右松子女戸主ニ付キ隠居

右隠居及御届候也

大正九年十月十五日

届出人

甲 野 松 子

乙 川 孝 二 郎

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

右松子隠居ニ付キ家督相續ヲ單純承認致候

指定家督相續人 乙 川 孝 二 郎

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 指定家督相續人カ隠居者ノ親族ナルトキハAノ例ニ依リ相續人同頭ニ隠居者

トノ續柄ヲ記載スヘシ

第二 裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲ス場合

一 戸主カ六十歳以上ノ男子ニシテ相續人カ無能力者ナル場合

戸籍 届書申請書式 隠居



隠居届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

隠居者

甲野義太郎

安政元年七月十日生

家督相續人 戸主義太郎長男

禮太郎

明治四十五年六月八日生

右義太郎家督相續人禮太郎未成年ナルニ付キ大正九年十月十日附東京區裁判所ノ許可ノ裁判ニ依リ隠居

右隠居別紙裁判ノ謄本相添へ及御届候也

大正九年十月十五日

届出人

甲野義太郎

家督相續人甲野禮太郎未成年ニ付親權ヲ行フ父

甲野義太郎

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 裁判所ノ許可ヲ得テ爲ス隠居届ニハ相續人ノ承認ノ旨ヲ記載セシムルニ及ハス

二 戸主カ六十歳未満ノ男子ニシテ相續人カ完全ノ能力ヲ有スル者ナル場合

隠居届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

隠居者

甲野義太郎

明治十年五月七日生

家督相續人 戸主義太郎長男

禮太郎

明治三十年一月七日生

右義太郎疾病ニ因リ家政ヲ執ルコト能ハサルニ付キ大正九年十月十日附東京區裁判所ノ許可ノ裁判ニ依リ隠居

右隠居別紙裁判ノ謄本相添へ及御届候也

大正九年十月十五日

届出人

甲野義太郎

甲野禮太郎

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

三 戸主カ六十歳未満ノ男子ニシテ相續人カ無能力者ナル場合

隠居届



戸籍 届書申請書式 隠居

二三八

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主  
甲野義太郎  
明治十年五月七日生

隠居者  
家督相續人 戸主義太郎  
郎長男

禮太郎

右義太郎疾病ニ因リ家政ヲ執ルコト能ハス且家督相續人禮太郎未成年ナルニ付キ大正九年十月十日附東京區裁判所ノ許可ノ裁判ニ依リ隠居  
右隠居別紙裁判ノ謄本相添ヘ及御届候也  
明治四十五年六月八日生

大正九年十月十五日

届出人

甲野義太郎  
家督相續人甲野禮太郎未成年ニ付キ親權ヲ行フ  
父

甲野義太郎

東京市麴町區長 雲井高輔殿  
備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

四 戸主カ六十歳未満ノ女子ニシテ相續人カ無能力者ナル場合

隠居届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

隠居者

家督相續人 戸主松子長男

甲野松子  
明治十年九月九日生  
禮二郎

右松子家督相續人禮二郎未成年ナルニ付キ大正九年十月十日附東京區裁判所ノ許可ノ裁判ニ依リ隠居  
右隠居別紙裁判ノ謄本相添ヘ及御届候也  
大正九年十月十五日

届出人

甲野松子  
家督相續人甲野禮二郎未成年ニ付キ親權ヲ行フ  
母

甲野松子

東京市麴町區長 雲井高輔殿  
備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

五 戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル爲隠居ヲ爲ス場合

隠居届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

隠居者

甲野義太郎  
明治五年五月十日生

戸籍 届書申請書式 隠居

二三九



家督相續人 戸主義太郎 長男

禮太郎

右義太郎入夫婚姻(婿養子婚姻)ニ因リテ他家ニ入ル爲大正九年十月十日附東京區裁判所ノ許可ノ裁判ニ依リ隠居

右隠居別紙裁判ノ謄本相添ヘ及御届候也

届出人

甲野義太郎  
甲野禮太郎

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

第三 有夫ノ女戸主カ隠居ヲ爲ス場合

隠居届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

隠居者

甲野松子

家督相續人 戸主松子長男

禮太郎

明治三十年一月七日生

右松子女戸主ニ付キ隠居  
右隠居及御届候也

大正九年十月十五日

届出人

甲野松子  
甲野禮太郎

東京市麴町區長 雲井高輔殿

右隠居ニ同意致候

松子夫

甲野義太郎  
明治五年九月十日生

右松子隠居ニ付キ家督相續ヲ單純承認致候

家督相續人

甲野禮太郎

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

第十一款 死亡

死亡ハ人生ノ終リニシテ一切ノ身分關係之ニ因リテ消滅スルモノナルヲ以テ戸籍ノ記載上最重要ナルモノトス若其届出ニシテ勵行セラレサルトキハ各人ノ權義ニ影響スルハ勿論人口ノ確實ト爲ラサル結果國家施政ノ萬端ニ差支ヲ生スヘク殊ニ衛生行政ノ必要ニ基キ戸籍法ニ於テハ出生ニ於ケルト同様ニ各種ノ場合ニ應シテ多方面ノ届出人ヲ定メ以テ届出漏ノ甚少ナランコトヲ期シタリ



第一項 届出期間

死亡届ハ前述ノ理由ニ依リテ他ノ届出ニ比シ短期日ニ之ヲ届出テシムルコトトセリ即死亡ノ届出ハ届出義務者カ死亡ノ事實ヲ知りタル日ヨリ七日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一一六條第一項)唯死亡者ノ本籍不明ナルトキ又ハ死亡者ヲ認識スルコト能ハサルトキ警察官ヨリ死亡報告アリタル後ニ死亡届出義務者カ死亡者ヲ認識シタル場合ノ死亡届ハ十日内ニ爲スヘキモノトス(戸第一一二條第三項)其ノ他死亡ノ報告ヲ爲スニ付テハ別ニ報告期間ノ定ナキモ遲滞ナキヲ要ス

第二項 届出地

死亡ノ届出ハ通則ノ規定ニ從テ死亡者ノ本籍地又ハ届出人ノ所在地ニ爲ス外尙死亡地ニ於テモ届出ヲ爲スコトヲ得(戸第一一八條)死亡地ニ届出ヲ許スハ埋葬其ノ他ノ便宜ヲ圖リ迅速ニ届出ヲ爲サシムル趣旨ニ出テタルモノトス  
汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニ於テ死亡シタル場合ニハ出生ト同シク到着地ニ於テモ届出ヲ爲スコトヲ得(戸第七一條、第一二二條)

次ニ報告ニ付テハ事變ニ因ル死亡報告ハ死亡者ノ本籍地市町村長ニ(戸第一一九條)死刑ノ執行ニ基ク死亡報告又ハ在監中ノ死亡者ニシテ引取人ナキトキノ報告ハ監獄所在地ノ市町村長ニ(戸第一二〇條)死亡者ノ本籍分明ナラス又ハ死亡者ヲ認識スルコト能ハサル場合ニ爲ス警察官ノ報告及其ノ報告後ニ於ケル本籍分明又ハ認識ノ報告ハ死亡地ノ市町村長ニ爲ス(戸第一二二條)  
航海日誌ヲ備フル艦船ノ航海中ニ死亡者アリタルトキニ艦長又ハ船長ノ爲ス航海日誌ノ謄本ノ送付ハ艦船カ日本ノ港ニ着シタルトキハ其ノ地ノ市町村長ニ、艦船カ外國ノ港ニ着シタルトキハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ爲ス(戸第一二三條)

第三項 届出義務者

死亡ノ届出ニ付テハ既ニ述ヘタル如ク多方面ニ付届出義務者又ハ報告者ヲ定メタルヲ以テ説明ノ便ノ爲左ニ場合ヲ分テ之ヲ説明スヘシ

(一) 死亡者ノ本籍明ナルトキ又ハ之ヲ認識シ得ル場合

此ノ場合ハ最モ普通ナルモノニシテ左ノ者ヨリ左ノ順序ニ於テ届出ヲ爲スノ義務ヲ有スルヲ原則トス而モ此ノ順序ニ拘ハラズ届出ヲ爲スモ其ノ届出ハ無効ト爲ラサルモノトス(戸第一一七條)蓋死亡ニ付テハ届出漏ノ絶無ナランコトヲ期シタルモノトス

一 戸主

一 同居者(同居者ハ死亡者ノ親族ナルヲ要セス而シテ假令親族ナルモ同居セサル者ハ届出義務者ニ非ス尙ホ戸籍ヲ同クスル者ト雖モ別居スル者ハ亦届出ヲ爲スコトヲ得サルモノトス)

二 家主、地主又ハ家屋若ハ土地ノ管理人

戸籍 届書申請書式 死亡



(二) 事變ニ因ル死亡者

水難、火災其ノ他ノ事變ニ因リテ死亡シタル者アル場合ニ於テハ其ノ取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一一九條)本項ノ官廳又ハ公署ハ職務上事變ノ取調ヲ爲スノ責任アル官廳又ハ公署トス

(三) 在監人ノ死亡ノ場合

(イ) 死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ニ於テ遲滞ナク監獄所在地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スヘキモノトス(戸第一二〇條第一項)

(ロ) 其ノ他在監中死亡シタル者ニシテ引取人ナキ場合ニモ(イ)ノ如ク報告ヲ要ス(戸第一二〇條第二項)若此ノ場合ニ引取人アルモ(一)ニ述ヘタル届出義務者ナキトキ又ハ義務者ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ監獄ノ長ヨリ死亡ノ届出ヲ爲スヘキモノトス(戸第七六條、第一二三條)

(四) 航海日誌ヲ備フル艦船内ニ於テ死亡者アリタル場合此ノ場合ニハ艦長又ハ船長ハ艦船カ日本ノ港ニ着シタルトキハ其ノ地ノ市町村長ニ死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ發送スヘク若艦船カ外國ノ港ニ着シタルトキハ艦長又ハ船長ハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ航海日誌ノ謄本ヲ發送シ之ヲ大使、公使又ハ領事ヨリ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ更ニ之ヲ本籍地ノ市町村長

ニ發送スルモノトス(戸第七五條、第一二三條)

(五) 死亡者ノ本籍分明ナラス又ハ死亡者ヲ認識スルコト能ハサル場合

右ハ多ク行旅病人カ死亡シタル場合等ニ起ル事件ニシテ死亡者ノ本籍分明ナラス又死亡者カ何人ナルカヲ知ルコト能ハサルトキハ警察官ニ於テ檢視調書ヲ作り之ヲ添附シテ死亡地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スヘキモノトス(戸第一二二條第一項)

右ノ報告後ニ死亡者ノ本籍分明ト爲リ又ハ死亡者ヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ更ニ其ノ旨ヲ報告スヘキモノトス(同第二項)此ノ場合ニ若(一)ニ述ヘタル死亡届出義務者カ死亡者ヲ認識シタルトキハ十日内ニ死亡届出義務者ヨリ死亡届ヲ爲スヘキモノトス(同第三項)

第四項 届書ノ作製

死亡ノ届書ニハ届出通則ニ定メタル一般ノ事項(第一節第三款)ノ外死亡ニ特別ナル左ノ事項ヲ記載スルヲ要ス(戸第一一六條)

一 死亡者ノ氏名、本籍及職業

二 死亡ノ年月日時及場所

三 死亡者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及戸主ト死亡者トノ續柄

而シテ死亡ノ届書ニハ診斷書若ハ檢案書又ハ檢視調書ノ謄本ヲ添附スルヲ要ス



事變ニ因ル死亡者ノ報告書及監獄ノ長ヨリ爲ス死亡報告ニモ死亡届ニ記載スヘキ事項ヲ記載スヘキモノトス(戸第一二二條)在監中ノ死亡者ニシテ引取人ナキ場合ニ於ケル死亡報告ニハ診斷書又ハ檢案書ヲ添附スルコトヲ要ス(戸第一二〇條第二項)

航海日誌ヲ備フル艦船中ニ死亡者アリタル場合ニハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ前ニ述ヘタル一般死亡届ニ記載スヘキ事項ヲ航海日誌ニ記載シテ署名、捺印ヲ爲スヘキモノトス此ノ手續ヲ爲シタル後ニ航海日誌ノ謄本ヲ發送スヘキ手續ハ既ニ述ヘタル所ニ依リテ了知セラルヘシ

第五項 届書式

第一 普通ノ死亡ヲ届出ツル場合

一 家族ノ死亡ヲ戸主ヨリ届出ツル場合

(イ) 本籍ニ於テ死亡シタル者ニ付本籍地市町村長ニ届出ツル場合

死亡届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥會社員

甲野智太郎

死亡者

死亡ノ時 大正九年十月十日午後三時

死亡ノ場所 本籍

右死亡別紙診斷書相添ヘ及利届候也

大正九年十月十二日

届出人 戸主

甲野義太郎

明治元年八月八日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考

一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ  
二 死亡ノ場所ヲ本籍ト記載スルハ本籍ノ在ル家屋ニ於テ死亡シタル場合ニ限ルモノニシテ本籍地内ノ他ノ家屋ニ於テ死亡シタル場合ノ如キハ其ノ家屋ノ所在スル町名番地ヲ記載スヘキモノトス例ヘハ「東京市麴町區元園町一丁目一番地」ト記載スルカ如シ

(ロ) 本籍地外ニ於テ死亡シタル者ニ付本籍地市町村長ニ届出ツル場合

死亡届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥會社員

甲野智太郎

死亡者

死亡ノ時 大正九年十月十日午後三時

死亡ノ場所 東京市神田區錦町三丁目一番地

右死亡別紙診斷書相添ヘ及御届候也

大正九年十月十二日

届出人 戸主

甲野義太郎

明治元年八月八日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

戸籍 届書申請書式 死亡



備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ  
二 本籍地外ニ於テ死亡シタル場合トハ死亡者ノ本籍ノ在ル市町村以外ノ地ニ於テ死亡シタル場合ヲ云フ

(ハ) 本籍地外ニ於テ死亡シタル者ニ付届出人ノ所在地タル死亡地市町村長ニ届出ツル場合

死亡届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥會社員

死亡者 甲野智太郎

死亡ノ時 大正九年十月十日午後三時

死亡ノ場所 東京市神田區錦町三丁目一番地

右死亡別紙診断書相添へ及御届候也

大正九年十月十二日

所在(住所寄留)東京市神田區錦町三丁目一

番地

届出人 戸主 甲野義太郎

明治元年八月八日生

東京市神田區長 西村東作殿

備考

一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ  
二 本例ハ届出人ノ所在地カ寄留地ナル場合トス

二 家族ノ死亡ヲ同居者ヨリ届出ツル場合

(イ) 本籍ニ於テ死亡シタル者ニ付同籍ノ同居者ヨリ本籍地ニ届出ツル場合

死亡届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥會社員

死亡者

甲野智太郎

死亡ノ時 大正九年十月十日午後三時

死亡ノ場所 本籍

右死亡別紙診断書相添へ及御届候也

大正九年十月十二日

届出人

同居者 智太郎妻 甲野竹子

明治三十年九月九日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ  
二 届出人タル同居者カ異籍ノ者ナルトキハ届出人ノ届書トシテ其ノ本籍、戸主ノ氏名、戸主トノ続柄及所在ノ場所ヲ記載スヘシ

(ロ) 本籍地外ニ於テ死亡シタル者ニ付異籍ノ同居者ヨリ死亡地ニ届出ツル場合

死亡届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥會社員

死亡者

甲野智太郎

戸籍 届書申請書式 死亡



戸籍 届書申請書式 死亡

二五〇

死亡ノ時 大正九年十月十日午後三時  
死亡ノ場所 東京市神田區錦町三丁目一番地  
右死亡別紙診断書相添へ及御届候也  
大正九年十月十二日

本籍 東京市神田區錦町三丁目一番地戸主  
届出人 同居者 乙 川 孝 輔  
明治八年八月八日生

東京市神田區長 西 村 東 作 殿

- 備考 一 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ
- 二 死亡者ト届出人ト親族關係アルトキハ其ノ續柄ヲ届出人ノ頭ニ記載スルコト (イ)ノ例ノ如シ
- 三 届出人カ死亡者ト同籍者ナルトキハ其ノ届書ヲ所在ノ場所ノ記載ニ改ムヘシ

三 家族ノ死亡ヲ家主、地主又ハ家屋若ハ土地ノ管理人ヨリ届出ツル場合

死亡届

死亡者 死亡ノ時 大正九年十月十日午後三時  
死亡ノ場所 神奈川縣橋樹郡橋村百番地  
右死亡別紙診断書相添へ及御届候也

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥會社員  
所在(住所寄留)神奈川縣橋樹郡橋村百番地  
甲 野 智 太 郎

大正九年十月十二日

本籍 神奈川縣橋樹郡橋村一番地戸主

届出人 地主 山 村 吉 兵 衛  
明治十年八月九日生

神奈川縣橋樹郡橋村長 山 邊 熊 藏 殿

- 備考 一 本例ハ非本籍人ノ死亡地ニ届出テタル場合ナルニ付届書ニ通テ差出スヘシ
- 二 届出人カ家主、土地若ハ家屋ノ管理人ナルトキハ本例届出人ノ項「地主」トアルヲ「家主」「土地管理人」「家屋管理人」ニ改ムヘシ

四 戸主ノ死亡ヲ家督相續人ヨリ届出ツル場合

死亡届

死亡者 死亡ノ時 大正九年十月十日午後三時  
死亡ノ場所 本籍  
右死亡別紙診断書相添へ及御届候也  
大正九年十月十二日

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主官吏  
甲 野 義 太 郎

届出人 相續人 義太郎 長男 甲 野 禮 太 郎  
明治三十年一月一日生

戸籍 届書申請書式 死亡

二五一



東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ  
二 家督相續人ハ戸主ト同居スルト否トニ拘ラス相續人トシテ届出ヲ爲スヘキモ  
ノトス而シテ本例ハ戸主ト同居スル場合ノ例ナルモ之ト同居セサルトキハ相  
續人ノ肩書トシテ其ノ所在ノ場所ヲ記載スヘシ

第二 出生届出前ニ死亡シタル子ニ付出生及死亡ヲ届出ツル場合

一 出生届書式

出生届

本籍 東京市麴町區平河町一丁目四番地戸主甲野義太郎弟會社

員 父 甲野義二郎

母無職業 松 江

長男

義 一

出生ノ時 大正八年十月十五日午後二時

出生ノ場所 本籍

右嫡出子出生及御届候也

大正八年十月二十日

右義一出生届出前死亡シタルニ付  
届出人 戸主 甲野義太郎

安政元年七月十日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

二 死亡届書式

死亡届

本籍 東京市麴町區平河町一丁目四番地戸主甲野義太郎甥無職

業

甲野義一

死亡者

死亡ノ時 大正八年十月十六日午後一時

死亡ノ場所 本籍

右死亡別紙診断書相添へ及御届候也

大正八年十月二十日

届出人 戸主 甲野義太郎

安政元年七月十日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

戸籍 届書申請書式 死亡



戸籍 届書申請書式 死亡

二五四

第三 公設所ニ於ケル死亡ヲ其ノ長又ハ管理人ヨリ届出ツル場合

死亡届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥會社員

甲野智太郎

死亡者

死亡ノ時 大正九年十月十日午後三時

死亡ノ場所 東京市麴町區三番町五番地青木病院

右死亡別紙診断書相添へ及御届候也

大正九年十月十二日

戸主不在ニ因リ届出ヲ爲スコト能ハサルニ付

届出人 青木病院長

青木茂

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 第一款第五項第四ノ七備考参照

第四 警察官ヨリ死亡報告後ニ於テ死亡者ヲ認識シタル者ヨリ死亡届ヲ爲ス場合

死亡届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥會社員

甲野智太郎

死亡者

死亡ノ時 大正十一年九月十日午前十時

死亡ノ場所 神奈川縣横濱市加賀町五番地先道路

右智太郎ニ對シ大正十一年九月十日警察官ヨリ本籍氏名不詳者トシテ横濱市長ニ死亡報告ノ

處同月十五日死亡者ヲ認識ス

右死亡及御届候也

大正十一年九月十六日

届出人 戸主 甲野義太郎

明治元年一月一日生

神奈川縣横濱市長 舟崎安守殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 死亡届ヲ爲スヘキ地ニ付テハ必スシモ前ニ死亡報告アリタル地ノ市町村長ニ

爲スヘキモノト限ラス本人ノ本籍地又ハ届出人ノ所在地ニ之ヲ爲スコトヲ得

ルモノトス尙届書ニハ檢視調書ノ謄本ヲ添附スルニ及ハス(司法省戸籍寄留

先例全集「七二六」「七六〇」参照)

第五 死亡ニ關スル報告

一 事變ニ因ル死亡報告

死亡報告

本籍 神奈川縣足柄下郡小田原町一番地戸主大船太郎長男漁業

大船波太郎

死亡者

死亡ノ時 大正十年五月五日時不詳

戸籍 届書申請書式 死亡

二五五



戸籍 届書申請書式 死亡

二五六

死亡ノ場所 神奈川縣足柄下郡酒匂村沖  
右水難ニ因ル死亡及報告候也

大正十年五月七日

右水難ノ取調ヲ爲シタル神奈川縣下足柄郡酒匂村長

海邊 浪 吉 印職

神奈川縣足柄下郡小田原町長 山 本 武殿

二 在監人ノ死亡報告

イ 死刑執行ノ場合

死亡報告

本 籍

業

東京市神田區小川町一丁目一番地戸主西川一郎二男無職

西川 太 郎

死亡者

死亡ノ時

大正十一年九月十日午前十時

死亡ノ場所

東京市牛込區市ヶ谷富久町東京監獄

右死刑執行ニ因ル死亡及報告候也

大正十一年九月十二日

東京監獄典獄 鬼 頭 鐵 三 印職

東京市牛込區長 天 津 晴 風 殿

備考

- 一 報告書ハ一通ニ監獄所在地ノ市町村長ニ送付スルヲ以テ足り之ヲ受ケタル市町村長ハ其ノ謄本ヲ作り之ヲ死亡者ノ本籍地市町村長ニ送付スヘキモノトス (戸第三四條、戶施第三七條參照)
- 二 死刑執行ノ場合ノ報告書ニハ檢案書等ヲ添附スルニ及ハス
- 三 死刑執行ノ場合ハ死亡者ノ引取人アルト否トニ拘ラス當ニ報告ヲ爲スヘキモノトス

(ロ) 死亡者ノ引取人ナキ場合

死亡報告

本 籍

業

東京市神田區小川町一丁目一番地戸主西川一郎二男無職

西川 太 郎

死亡者

死亡ノ時

大正十一年九月十日午前九時

死亡ノ場所

東京市牛込區市ヶ谷富久町東京監獄

右死亡別紙診斷書相添ヘ及報告候也

大正十一年九月十二日

東京監獄典獄 鬼 頭 鐵 三 印職

東京市牛込區長 天 津 晴 風 殿

備考 一 (イ)ノ備考ニ參照

二 引取人アル場合ハ戸第百十七條ノ届出義務者ヨリ届出ヲ爲スヘク若此等ノ者

戸籍 届書申請書式 死亡

二五七



ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ戸籍百二十三條ニ依リ典獄ヨリ第三ノ例ニ依リ死亡届ヲ爲スヘキモノトス

三 警察官ヨリ爲ス死亡報告

(イ) 死亡者ノ本籍分明ナラス又ハ死亡者ヲ認識スルコト能ハサル場合ノ報告

死亡報告

本籍氏名不詳

死亡者

男

死亡ノ時 大正十一年九月十日午前十時

死亡ノ場所 神奈川縣横濱市加賀町五番地先道路

右死亡別紙檢視調書ノ謄本相添ヘ及報告候也

大正十一年九月十日

加賀町警察署長警視 刑 部 律 造 印職

神奈川縣横濱市長 舟 崎 安 守 殿

備考

- 一 報告書ハ一通ヲ死亡地ノ市町村長ニ送付スルヲ以テ足ル
- 二 本例ハ死亡者ヲ認識スルコト能ハサル場合ノ例ナルモ單ニ本籍ノ不明ナル場合ニハ本例中死亡者ノ肩書ヲ「本籍不詳」トシ死亡者ノ下ニ氏名ヲ記載スヘシ

(ロ) 死亡者ノ本籍分明又ハ認識ノ報告

死亡者ノ本籍氏名報告

本 籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥會社員

甲 野 智 太 郎

死亡者

右者大正十一年九月十日日本籍及氏名不詳トシテ死亡報告

右死亡者ノ本籍氏名分明ニ付及報告候也

大正十一年九月十五日

加賀町警察署長警視 法 本 三 章 印職

神奈川縣横濱市長 蛸 崎 一 義 殿

備考

- 一 本例ハ死亡者認識ノ報告ヲ示シタルモノナルモ死亡者ノ本籍分明ノ報告ハ本例ニ準シテ之ヲ作製シ得ヘキニ付之ヲ略ス
- 二 (イ)ノ備考一参照

第十二款 失踪宣告

不在者ノ生死カ七年間分明ナラサルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ依リテ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス是レ普通ノ場合ノ失踪宣告ニシテ若戰地ニ臨ミタル者、沈没シタル船舶中ニ在リタル者其ノ他死亡ノ原因タルヘキ危難ニ遭遇シタル者ノ生死カ戰爭ノ止ミタル後、船舶ノ沈没シタル後又ハ其ノ他ノ危難ノ去リタル後三年間分明ナラサルトキモ亦同様ノ手續ニ依リテ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(民第三〇條)



此ノ如ク失踪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ前述ノ七年又ハ三年ノ期間ノ満了シタル時ニ於テ死亡シタルモノト看做サル(民第三二條)從テ戸主カ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ七年又ハ三年ノ期間満了ノ時ニ於テ家督相續開始シ家族カ失踪宣告ヲ受ケタルトキハ遺産相續開始スルモノトス其ノ他死亡ト同様ニ權利義務ノ消滅ノ原因ト爲ルモノナリ

失踪宣告ハ不在者ヲ死亡シタルモノト看做スモノナルヲ以テ若失踪者ノ生存スルコト又ハ死亡シタルモノト看做サレタル時即七年又ハ三年ノ期間満了ノ時ト異リタル時ニ於テ死亡シタルコトノ證明アルトキハ裁判所ハ本人又ハ利害關係人ノ請求ニ因リテ失踪宣告ヲ取消スモノトス(民第三二條)

失踪ノ宣告又ハ其ノ取消ノ申立ハ不在者ノ住所地ノ區裁判所ニ爲スヘキモノトス(人訴第七一條)

此ノ如ク失踪宣告ハ死亡ト同様ニ人格ノ消滅ヲ來スモノナルヲ以テ其ノ人ヲ戸籍ヨリ除ク爲届出ヲ爲サシムルノ必要アリ若又失踪宣告カ取消サレタルトキモ戸籍ノ記載ヲ爲スノ必要アルハ勿論トス但シ取消ノ場合ハ届出ヲ爲スニ非スシテ戸籍法第六十七條ニ依リテ戸籍訂正ノ申請ヲ爲スヘキモノトス  
戸主ノ失踪宣告カ取消サレタルトキハ前戸主ハ戸主ニ復テ回復スルモノトス其他詳細ナル手續ハ以下項ヲ分テ述フル所ニ依リテ了知アルヘシ

### 第一項 届出期間

失踪宣告ノ届出ハ裁判ノ日ヨリ十四日內ニ爲スヘキモノトス(戸第一二四條第一項)失踪宣告ノ取消ノ裁

判アリタルトキハ判決確定ノ日ヨリ一ヶ月內ニ戸籍訂正ノ申請ヲ爲スヘシ(戸第一六七條)

### 第二項 届出地

失踪宣告ノ届出地ニ付テハ別段ノ定ナキヲ以テ届出地則ノ規定ニ從テ(第一節第一款)失踪者ノ本籍地又ハ届出人ノ所在地ノ市町村長ニ届出ヲ爲スヘキモノトス(戸第四三條)失踪宣告ノ取消ノ裁判アリタル場合ノ戸籍訂正ノ申請モ亦失踪者ノ本籍地又ハ申請人ノ所在地ニ爲スヘキモノトス(戸第一六八條)

### 第三項 届出義務者

失踪宣告ノ届出ハ宣告ヲ請求シタル者ヨリ之ヲ爲シ(戸第一二四條第一項)失踪宣告取消ニ因ル戸籍訂正ノ申請ハ取消ノ請求ヲ爲シタル者ヨリ爲スヘキモノトス(戸第一六七條)

### 第四項 届書ノ作製

失踪宣告ノ届書ニハ届出通則ニ定メタル一般ノ記載事項ノ外(第一節第三款)左ノ特別事項ヲ記載スヘキモノトス尙届書ニハ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス(戸第一二四條)

一 失踪者ノ氏名及本籍

二 七年又ハ三年ノ期間満了ノ日

三 失踪者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及戸主ト失踪者トノ續納

失踪宣告取消ノ裁判ニ因ル戸籍訂正ノ申請書ニハ届出通則ニ依リテ届書ニ記載スヘキ一般ノ事項ヲ記載



スヘキモノトス而シテ此ノ場合ニ於ケル申請書式ハ戸籍訂正ノ部ニ掲記シタルニ付本款ニ於テハ之ヲ略ス

第五項 届書式

第一 失踪宣告ヲ受ケタル者カ戸主ナル場合

失踪宣告届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

甲野義太郎

失踪者

右義太郎大正九年五月十日失踪宣告大正九年三月十日死亡ト看做サル

大正九年五月十五日

届出人 義太郎 長男

甲野禮太郎

明治三十年五月八日生

東京市麴町區長

雲井高輔殿

備考

- 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ
- 二 死亡ト看做サルル日ハ七年又ハ三年ノ期間満了ノ日ヲ記載スヘク其ノ期間ノ計算方ハ所在不明ト爲リタル日ヨリ起算シ之ヲ期間ニ算入シ最後ノ月ノ應當日ノ前日ヲ以テ満了ノ日トシ之ヲ記載スヘキモノトス例ヘハ大正二年三月十一日ニ所在不明ト爲リタルトキハ大正九年三月十日ニ七年ノ期間満了スルモノトス

失踪宣告ノ日ハ届書ニ裁判ノ謄本ヲ添付スヘキニ付強テ之ヲ届書ニ記載スルノ要ナシ  
失踪ノ年明ナルモ其ノ月日又ハ日ノ不明ナル場合ニ於ケル七年又ハ三年ノ期間満了ノ日ハ七年又ハ三年ノ年末又ハ月末ノ日ヲ満了ノ日トシテ記載スヘシ  
戸主カ失踪宣告ヲ受ケタル場合ハ本例ニ依ル届出ト別ニ家督相續届ヲ爲スヘキモノトス其ノ例ハ次款ニ依リテ了知セララルヘシ

第二 失踪宣告ヲ受ケタル者カ家族ナル場合

失踪宣告届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎二男

甲野禮二郎

失踪者

右禮二郎大正九年五月十日失踪宣告大正九年三月十日死亡ト看做サル

大正九年五月十五日

届出人 禮二郎 父

甲野義太郎

明治元年九月七日生

東京市麴町區長

雲井高輔殿

備考

- 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ
- 二 前號備考ニ参照

第十三款 家督相續

戸籍 届書申請書式 家督相續



家督相続ハ戸主ノ更迭ニシテ戸籍ヲ根本的ニ改メサルヘカラサルヲ以テ其ノ届出ハ戸籍法上ノ届出中最モ重要ノモノナリトス即戸籍法第九條ニ在ル如ク戸籍ハ戸主ヲ本トシテ編製スルモノナルヲ以テ戸主ノ更迭アレハ茲ニ新戸籍ノ編製ヲ生スルモノトス

家督相続ハ左ノ事由ニ因リテ開始スルモノトス(民第九六四條)

- 一 戸主ノ死亡(失踪宣告)、隠居又ハ國籍喪失
- 二 戸主カ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ニ因リテ其ノ家ヲ去リタルトキ
- 三 女戸主ノ入夫婚姻又ハ入夫離婚

以上ノ原因ニ因リテ家督相続カ開始シタルトキハ家督相続人ハ家督相続届ヲ爲ササルヘカラス但シ入夫婚姻ニ因リテ入夫カ戸主ト爲ルトキハ婚姻ノ款ニ於テ述ヘタル如ク婚姻届ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ基キ入夫ノ戸籍ヲ編製スヘキモノナルヲ以テ別ニ家督相続届ヲ要セサルモノトス

家督相続人タルコトヲ得ル者ハ自然人ニ限り法人ハ家督相続人ト爲ルコトヲ得サルハ當然トス而シテ胎兒ノ如キハ未人トシテ存在セサルモノナリト雖家督相続ニ付テハ特ニ既ニ生マレタルモノト看做サル(民第九六八條)但シ胎兒カ死體ニテ生マレタルトキニ於テハ家督相続人ト爲ラサルコト勿論ナリトス其ノ他左ニ掲クルモノハ家督相続人タルコトヲ得ス(民第九六九條)

- 一 故意ニ被相続人又ハ家督相続ニ付先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル爲刑ニ處セラ

レタル者

二 被相続人ノ殺害セラレタルコトヲ知リテ之ヲ告發又ハ告訴セサリシ者但シ其ノ者ニ是非ノ辨別ナキトキ又ハ殺害者カ自己ノ配偶者若ハ直系血族ナリシトキハ此ノ限ニ在ラス

三 詐欺又ハ強迫ニ因リ被相続人カ相続ニ關スル遺言ヲ爲シ、之ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ妨ケタル者

四 詐欺又ハ強迫ニ因リ被相続人ヲシテ相続ニ關スル遺言ヲ爲サシメ、之ヲ取消サシメ又ハ之ヲ變更セシメタル者

五 相続ニ關スル被相続人ノ遺言書ヲ偽造、變造、毀滅又ハ藏匿シタル者

次ニ家督相続人ニハ凡以下ニ説明スルカ如ク五種ノ區別アリ第一ハ法定ノ推定家督相続人ト稱スルモノニシテ家督相続ノ開始ニ因リ當然戸主ト爲ル者ヲ云フ即チ被相続人ノ家族タル直系卑屬ハ左ノ定ニ從テ家督相続人ト爲ルモノトス(民第九七〇條)

- 一 親等ノ異リタル者ノ間ニ在リテハ其ノ近キ者ヲ先ニス即チハ孫ニ先ツカカ如シ
- 二 親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス即長男ト長女トアルトキハ長男ヲ先ニスルカ如シ
- 三 親等ノ同シキ男ノミ又ハ親等ノ同シキ女ノミノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニス即チ長男カ庶子ニシテ二男カ嫡出子ナルトキハ二男相続人タルヘク長女カ私生子ニシテ二女カ嫡出子ナルトキハ二女相続人



タルカ如シ

四 親等ノ同シキ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス即チ私生子ハ男女ニ拘ハラス常ニ他ニ嫡出子又ハ庶子ノアル限リハ相續人ト爲ラサルモノナリ若庶子男ト嫡出子女トノ間ニ在リテハ第二號ニ依リテ庶子男ヲ先ニス

五 前四號ニ掲ケタル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス即チ長男二男ノ間ニ在リテハ長男ヲ先ニスルノ類ナリ但シ年長ト雖モ父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子ノ身分ヲ取得シタル庶子、父母カ婚姻中認知シタルニ因リテ嫡出子ト爲リタル私生子又ハ養子ハ相續ニ付テハ其ノ出生ノ時ヲ標準トシテ長幼ノ順序ヲ定メスシテ父母カ婚姻シタル時、認知ノ時又ハ縁組ノ時等嫡出子ノ身分ヲ取得シタル時ニ生マレタルモノト看做シテ相續順位ヲ定ムルモノトス即例ハ長男出生後ニ於テ父母カ長男ヨリ年長ノ私生子ヲ認知スルモ認知セラレタルモノハ年長ノ故ヲ以テ長男ニ先ツコトヲ得サルカ如シ茲ニ注意スヘキハ女戸主カ夫婚姻ヲ爲シタルトキハ假令女戸主ニ前項ニ述ヘタル直系卑屬アルモ其ノ者ハ相續人ト爲ラスシテ夫戸主ト爲ルモノトス(民第七三六條、第九七二條)尙被相續人ノ直系卑屬ニシテ親族入籍又ハ引取入籍ニ因リテ家族ト爲リタル者ハ被相續人ニ他ニ嫡出子又ハ庶子タル直系卑屬ナキ場合ニ限リ前項ノ順序ニ從テ家督相續人ト爲ルモノトス(民第九七二條)又法定ノ推定家督相續人ハ其ノ姉妹ノ爲ニスル養子縁組ニ因リテ其ノ相續權ヲ害セラルルコトナシ例ヘハ長女二女アル場合二女ニ婿養子ヲ爲スモ婿養子ハ男子ノ故ヲ以テ長女ニ先ツコトヲ得サルモノトス(民第九七三條)

前各項ニ依リテ先順位ニ於テ家督相續ヲ爲スヘキ者カ家督相續ノ開始前ニ死亡其ノ他ノ原因ニ因リテ相續權ヲ失ヒタル場合ニ其ノ者ニ直系卑屬アルトキハ其ノ直系卑屬ハ前ニ述ヘタル順序即チ民法第九百七十條及第九百七十二條ニ定メタル順序ニ從ヒ相續權ヲ失ヒタル者ト同順位ニ於テ相續人ト爲ルモノトス之所謂代襲相續ナリトス(民第九七四條)

次ニ家督相續人ノ第二種ハ指定家督相續人トス即戸主ニ法定ノ推定家督相續人ナキトキハ戸主ハ家督相續人ヲ指定スルコトヲ得(民第九七九條)而シテ指定家督相續人ニ關スル詳細ハ家督相續人ノ指定ニ關スル第十五款ノ説明ニ依リテ了知セラルヘシ

第三種ハ説明ノ便宜上假ニ之ヲ第一種選定家督相續人ト稱セン總テ相續人ヲ選定スル場合ハ相續開始後トス即チ第一種選定家督相續人ニ付テハ家督相續ノ開始ノトキニ被相續人ニ法定又ハ指定ノ家督相續人ナキトキ其ノ家ニ被相續人ノ父アルトキハ父、父アラサルトキ又ハ父カ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ母、父母共ニアラサルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ親族會ハ左ノ順序ニ從ヒ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定スルモノトス(民第九八一條)

第一 配偶者但シ家女ナルトキ

戸籍 届書申請書式 家督相續



第二 兄弟

第三 姉妹

第四 第一號ニ該當セサル配偶者

第五 兄弟姉妹ノ直系卑屬

選定ハ右ノ順序ニ依リテ爲スヲ原則トスルモ正當ノ事由アル場合ニ限り裁判所ノ許可ヲ得テ右ノ順序ヲ變更シ又ハ右ニ掲ケタル者ヲ選定セサルコトヲ得ルモノトス(民第九八三條)

第四種ハ尊屬相續人ト稱スルモノニシテ前述第一種乃至第三種ノ相續人總テアラサルトキハ被相續人ノ家ニ在ル直系尊屬中親等ノ最モ近キ者カ當然家督相續人ト爲ルモノトス但シ親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ス(民第九八四條)是亦一ノ法定家督相續人ナリトス

第五種ハ假ニ第二種選定家督相續人ト稱スヘク被相續人ノ家ニ在ル直系尊屬中家督相續人ト爲ルヘキ者ナキトキ親族會ニ於テ選定スルモノニシテ選定セラルヘキ者ハ被相續人ノ親族、家族、分家ノ戸主又ハ本家若ハ分家ノ家族中ヨリ若シ是等ノ者ノ中ニ家督相續人タルヘキ者ナキトキハ親族會ハ他人ヲ選定スルコトヲ得ルモ親族會ハ正當ノ事由アル場合ニ限りテ裁判所ノ許可ヲ得テ右ニ掲ケタル者ヲ選定セスシテ始ヨリ他人ヲ選定スルコトヲ得(民第九八五條)

第一項 届出期間

家督相續ノ届出ハ戸主ト爲リタル者相續ノ事實ヲ知りタル日ヨリ一ヶ月内ニ爲スコトヲ要ス(戸第一二五條)故ニ戸主死亡ノ日ヨリ假令一ヶ月ヲ經過シテ相續届出ヲ爲スモ實際相續人カ旅行等ニ依リ戸主ノ死亡ノ事實ヲ知ラサリシコト明ナルトキハ之ヲ届出ヲ懈怠シタルモノトシテ處罰セラルルコトナキモノトス

戸主ト爲リタル者外國ニ在ル場合ニハ其ノ者カ相續ノ事實ヲ知りタル日ヨリ三ヶ月内ニ届書ヲ發送スレハ足ルモノトス(戸第一二五條第三項)

家督相續人カ胎兒ナルトキハ母カ相續ノ開始アリタルコトヲ知りタル日ヨリ一ヶ月内ニ届出ヲ爲スヘク母カ外國ニ在ルトキハ三ヶ月内ニ届書ヲ發送スレハ足ル(戸第一二七條)而シテ家督相續届ヲ爲シタル胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ母ハ一ヶ月内ニ其ノ旨ヲ届出ツヘク若母カ此ノ届出ヲ爲ササルトキハ胎兒カ死體ニテ生レタル爲ニ新ニ家督相續人ト爲リタル者ヨリ分産ノ事實ヲ知りタル日ヨリ一ヶ月内ニ死體分産ノ届出ヲ爲スヘキモノトス(戸第一二八條)尙胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ新相續人ヨリ更ニ普通ノ家督相續届ヲ自己カ相續ヲ爲シタル事實ヲ知りタル日即胎兒死體分産ノ事實ヲ知りタル日ヨリ一ヶ月内ニ爲スヘキナリ

家督相續回復ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一ヶ月内ニ家督相續ノ届出ヲ爲スヘキモノトス(戸第一二九條)



第二項 届出地

家督相続ニ關スル届出ハ總テ被相続人ノ本籍地ニ於テ爲スコトヲ要シ(戸第一三〇條)通則ノ規定ニ依ラサルモノトス

第三項 届出義務者

家督相続ノ届出ハ戸主ト爲リタル者ヨリ届出ツヘシ(戸第一二五條)

胎兒ノ家督相続届及胎兒ノ死産届ハ母ヨリ爲スヘク若シ母カ胎兒ノ死産届ヲ爲ササルトキハ家督相続人ヨリ其ノ届出ヲ爲スヘシ(戸第一二八條)

家督相続回復ノ裁判ニ因ル家督相続届ハ訴ヲ提起シタル者ヨリ爲スヘシ(戸第一二九條)

第四項 届書ノ作製

家督相続届書ニハ届出通則ニ定メタル事項ノ外向左ノ特別ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第一二五條第二項)

一 家督相続ノ原因及戸主ト爲リタル年月日

二 前戸主ノ氏名及前戸主トノ続柄

選定ニ因ル家督相続人カ届出ヲ爲ス場合ニハ届書ニ選定ヲ證スル書面ヲ添附シ、家督相続回復ニ因ル相続届ニハ家督相続回復ノ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ(戸第一二六條、第一二九條)

胎兒ノ家督相続届書ニハ診斷書ヲ添附シ左ノ特別事項ヲ記載スヘシ(戸第一二七條)

一 家督相続ノ原因及相続開始ノ年月日

二 家督相続人カ胎兒ナルコト

三 前戸主ノ氏名及前戸主ト家督相続人トノ続柄

胎兒ノ死産届ノ記載方ニ付テハ書式ニ依リテ明ナルヲ以テ別ニ説明ヲ加ヘス唯届書ニハ醫師又ハ産婆ノ檢案書ヲ添附スルヲ要ス(戸第一二八條)

第五項 届書式

第一 法定ノ推定家督相続人カ相続ヲ爲シタル場合

一 前戸主ノ死亡ニ因ル家督相続ノ場合

家督相続届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

家督相続人 前戸主義太郎長男

甲 野禮太郎

明治三十年一月一日生

右禮太郎大正九年十月十日前戸主義太郎死亡ニ因リ家督相続戸主ト爲ル

大正九年十月二十日

右家督相続及御届候也

戸籍 届書申請書式 家督相続



戸籍 届書申請書式 家督相續

二七二

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿 届出人

甲 野 禮 太 郎 印

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通チ差出スヘシ  
二 法定ノ推定家督相續人ハ未成年者又禁治産者ナルトキト雖意思能力ナ有スル以上ハ自ラ届出チ爲スコトヲ得ルモノトス而シテ意思能力ナ有セサルトキハ親權者又ハ後見人ヨリ届出チ爲スコトヲ要ス(戸第四九條第一項)

二 前戸主ノ失踪宣告ニ因ル家督相續ノ場合

家督相續届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主  
家督相續人 前戸主義 太郎長男 甲 野 禮 太 郎

右禮太郎大正九年五月十日前戸主義太郎失踪宣告大正八年十二月二日死亡ト看做サレタルニ

因リ家督相續戸主ト爲ル  
右家督相續及御届候也  
大正九年五月十五日

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿 届出人 甲 野 禮 太 郎 印

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通チ差出スヘシ  
二 本例前文「大正八年十二月二日」ハ七年又ハ三年期間満了ノ日ナリ

三 前戸主ノ隠居ニ因ル家督相續ノ場合

家督相續届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主  
家督相續人 前戸主義 太郎長男 甲 野 禮 太 郎

右禮太郎大正九年十月十日前戸主義太郎隠居ニ因リ家督相續戸主ト爲ル  
大正九年十月二十日 明治三十年一月一日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿 届出人 甲 野 禮 太 郎 印

備考 本例ニ依ル届書ハ一通チ差出スヘシ

四 前戸主ノ國籍喪失ニ因ル家督相續ノ場合

家督相續届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主  
家督相續人 前戸主義 太郎長男 甲 野 禮 太 郎

戸籍 届書申請書式 家督相續

二七三



右禮太郎大正九年十月十日前戸主義太郎國籍喪失ニ因リ家督相續戸主ト爲ル  
大正九年十月十五日

届出人 甲野禮太郎

東京市麴町區長 雲井高輔殿  
備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

五 前戸主カ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ニ因リテ其ノ家ヲ去リタルニ付家督相續ヲ爲ス場合

家督相續届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

家督相續人 前戸主義太郎長男

甲野禮太郎

右禮太郎大正九年一月十日前戸主義太郎婚姻(又ハ養子縁組)ノ取消ニ因リテ家ヲ去リタルニ付キ家督相續戸主ト爲ル  
大正八年十二月五日生

右家督相續及御届候也  
大正九年一月十五日

届出人 甲野禮太郎  
甲野松子

明治三十年二月十日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考

- 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ
- 二 戸主ノ婚姻又ハ養子縁組ノ取消アリタルトキハ當然前戸主タル女戸主又ハ養父ニ於テ家督相續ヲ爲スヘキモノニ非スシテ戸主ノ直系卑屬アルトキハ其ノ者ニ於テ家督相續ヲ爲スヘキモノトス
- 三 本例相續人ハ意思無能力者ナルヲ以テ其ノ親權者タル母ヨリ届出テタルモノトス

六 入夫戸主ノ離婚ニ因ル家督相續ノ場合

家督相續届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

家督相續人 前戸主義太郎長男

甲野禮太郎

右禮太郎大正九年十月十日前戸主入夫義太郎離婚ニ因リ家督相續戸主ト爲ル  
大正九年十月十五日

明治三十年一月一日生

届出人 甲野禮太郎

東京市麴町區長 雲井高輔殿

- 備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ
- 二 入夫戸主離婚ノ場合ニハ前戸主タル妻(女戸主)カ當然戸主權ヲ取得スルモノ



第二 指定ニ因ル家督相続ノ場合

一 指定家督相続人カ被相続人ノ家族ナル場合

家督相続届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

指定家督相続人 前戸主義太郎弟

甲野 義 二 郎

明治五年五月五日生

右義二郎大正九年十月十日前戸主義太郎死亡ニ因リ家督相続戸主ト爲ル

届出人

甲野 義 二 郎

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通テ差出スヘシ 二 死亡以外ノ原因ニ基ク家督相続届ハ第一ニ示シタル各例ニ依リ了知セラズ

ニ非シテ入夫ノ直系卑屬アルトキハ其ノ者ニ於テ家督相続ヲ爲スヘキモノトス  
三 女戸主ノ入夫婚姻ニ因ル家督相続ハ入夫婚姻届ニ入夫カ戸主ト爲ル旨ヲ記載スレハ足り別ニ入夫ヨリ家督相続届ヲ爲スヘキモノニ非ス(第五款第三参照)

二 指定家督相続人カ他家ノ家族ナル場合

家督相続届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

父 乙 川 孝 輔 二 男  
母 秋 子

甲野 孝 二 郎

指定家督相続人 前戸主義太郎弟

右千葉縣千葉郡千葉町一番地戸主乙川孝輔二男孝二郎大正九年十月十日前戸主義太郎死亡ニ因リ家督相続戸主ト爲ル

右家督相続及御届候也 大正九年十月十五日

届出人

甲野 孝 二 郎

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

戸主

乙 川 孝 輔

明治元年九月七日生

備考 一 本例ハ家督相続人ノ本籍地カ被相続人ノ本籍地ト異ナルヲ以テ届書ニ通テ差出スヘキモノトス 二 家族カ他家相続ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ要ス



第三 選定ニ因ル家督相續ノ場合

- 甲 第一種選定家督相續人(民第九八二條ノ場合)カ届出ヲ爲ス場合
- 一 父又ハ母カ選定ヲ爲シタル場合

家督相續届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

選定家督相續人 前戸主義太郎弟

甲野義二郎

明治三十年一月一日生

右義二郎大正九年十月十日前戸主義太郎死亡ニ因リ家督相續戸主ト爲ル  
大正九年十月十五日

右家督相續別紙選定ヲ證スル書面相添ヘ及御届候也

届出人

甲野義二郎

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考

- 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ
- 二 左ニ參考ノ爲相續人選定證明書式ヲ示ス
- 三 父カ選定ヲ爲シタル場合モ母カ選定ヲ爲シタル場合モ届書ハ同様ナリトス

家督相續人選定證明書

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地亡戸主義太郎弟

甲野義二郎

前記義二郎ヲ亡戸主甲野義太郎ノ家督相續人ニ選定シタルコトヲ證明ス  
大正九年十月十二日

亡戸主義太郎父

甲野仁吉

(注意) 父ナキ爲又ハ父カ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハサル爲母カ選定ヲ爲シタルトキ  
ハ本例中署名ノ項ヲ左ノ如ク記載スヘシ  
亡戸主義太郎父ナキ爲(父仁吉疾病ニ因リ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハサルニ付)義太郎母

甲野松子

二 親族會カ選定ヲ爲シタル場合

家督相續届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

選定家督相續人 前戸主義太郎弟

甲野義二郎

明治三十年一月一日生

右義二郎大正九年十月十日前戸主義太郎死亡ニ因リ家督相續戸主ト爲ル  
大正九年十月三十日

右家督相續別紙選定ヲ證スル書面及親族會員選定ノ裁判ノ謄本相添ヘ及御届候也

届出人

甲野義二郎

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考

- 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ



- 二 司法省戸籍寄留先例全集「三一五」項参照ノコト
- 三 参考ノ爲親族會員ノ相續人選定證明書式ヲ左ニ示ス

家督相續人選定證明書

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地亡戶主義太郎弟

甲野義二郎

亡戶主義太郎ニ父母ナキ爲(父母共ニ疾病ニ因リ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハサルニ付)同人ノ家督相續人選定ノ親族會ハ大正九年十月二十日ノ決議ニ依リ前記甲野義二郎ヲ家督相續人ニ選定シタルコトヲ證明ス

大正九年十月二十一日

親族會員  
本籍 東京市麴町區元國町三丁目一番地  
乙野忠太郎

親族會員  
本籍 東京市麴町區平河町一丁目六番地  
丙川信太郎

親族會員  
本籍 東京市神田區錦町一丁目一番地  
乙川孝輔

三 裁判所ノ許可ヲ得テ選定ノ順序ヲ變更シタル場合ノ家督相續届(民第九八三條)

家督相續届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

選定家督相續人 前戸主義太郎妹

甲野竹子

明治三十一年五月十日生

右竹子大正九年十月十日前戸主義太郎死亡ニ因リ家督相續戸主ト爲ル  
右家督相續別紙選定ヲ證スル書面及家督相續人選定順序變更許可ノ裁判ノ謄本相添へ及御届候也

大正九年十月三十日

届出人

甲野竹子

東京市麴町區長 雲井高輔殿

- 備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ
- 二 本例ハ被相續人ノ父又ハ母カ選定ヲ爲ス場合ニ於テ被相續人ノ家女タル妻又ハ兄弟ヲ選定セスシテ其ノ姉妹ヲ選定スルノ許可ヲ得タルトキノ届出ノ例ヲ示シタルモノナリ親族會カ選定ヲ爲ス場合ノ届書式ハ本例届出文中「選定ヲ證スル書面」ノ下ニ「親族會員選定ノ裁判ノ謄本」ヲ加フヘシ
- 三 選定ヲ證スル書面ノ書式ハ前一及二ノ書式ノ例ニ依リ了知セラルヘシ
- 四 選定順序變更許可申請書式ハ民事訴訟、人事訴訟、非訟事件ニ關スル書ハノ編ニ譲レルヲ以テ同編ニ付参照セラルヘシ

乙 第二種選定家督相續人(民第九八五條ノ場合)カ届出ヲ爲ス場合

一 被相續人ノ家族タル親族ヲ選定シタル場合

家督相續届

戸籍 届書申請書式 家督相續



本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主  
選定家督相續人 前戸主義太郎從弟 甲野義三郎

右義三郎大正九年十月十日前戸主義太郎死亡ニ因リ家督相續戸主ト爲ル  
明治二十年八月九日生  
右家督相續別紙選定ヲ證スル書面及親族會員選定ノ裁判ノ謄本相添へ及御届候也  
大正九年十月三十日

東京市麴町區長 雲井高輔殿 届出人 甲野義三郎

- 備考一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ
- 二 甲ノ二ノ備考参照ノコト
- 三 參考ノ爲親族會員ノ相續人選定證明書式ヲ左ニ示ス

家督相續人選定證明書

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地亡戸主義太郎從弟

亡戸主義太郎ニ民法第九百八十二條及第九百八十四條ニ定メタル家族ナキニ付同人ノ家督相續人選定ノ親族會ハ大正九年十月二十日ノ決議ニ依リ前記甲野義三郎ヲ家督相續人ニ選定シタルコトヲ證明ス

大正九年十月二十一日 本籍 東京市麴町區元園町一丁目一番地

親族會員 本籍 東京市麴町區平河町一丁目六番地 乙野忠二郎

親族會員 本籍 東京市神田區錦町一丁目一番地 丙川信太郎

親族會員 乙川孝輔

二 被相續人ノ親族タル他家ノ家族ヲ選定シタル場合

家督相續届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

父 乙川孝輔 二男  
母 秋子

選定家督相續人 前戸主義太郎從弟 甲野孝二郎

右千葉縣千葉郡千葉町一番地戸主乙川孝輔二男孝二郎大正九年十月十日前戸主義太郎死亡ニ因リ家督相續戸主ト爲ル  
明治三十年一月七日生  
右家督相續別紙選定ヲ證スル書面及親族會員選定ノ裁判ノ謄本相添へ及御届候也  
大正九年十月三十日

東京市麴町區長 雲井高輔殿 届出人 甲野孝二郎



右家督相續ニ同意致候

二八四

戸主 乙 川 孝 輔 明治元年一月一日生

- 備考 一 本例ニ依ル届書ハ二通チ差出スヘシ
- 二 前號備考参照ノコト
- 三 他家カ本家又ハ分家ナルトキハ本例中「戸主乙川孝輔」チ「分家(本家)戸主乙川孝輔」ニ改ムヘシ

三 民法第九百八十三條ニ依リ家督相續人不選定ノ許可ヲ得他ノ家族ヲ選定シタル場合ノ届出

家督相續届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

選定家督相續人 前戸主義太郎從弟

甲 野 義 三 郎

二 右義三郎大正九年十月十日前戸主義太郎死亡ニ因リ家督相續戸主ト爲ル 明治二十年一月十日生

右家督相續別紙選定ヲ證スル書面、家督相續人不選定許可ノ裁判ノ謄本及親族會員選定ノ裁判ノ謄本相添ヘ及御届候也

大正九年十月三十日

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿 届出人 甲 野 義 三 郎

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通チ差出スヘシ

二 本例ハ相續人カ被相續人ノ家族ナルモ相續人カ他家ノ家族ナルトキハ前號ノ例ニ依リ了知セラルヘシ

四 裁判所ノ許可ヲ得テ他人ヲ相續人ニ選定シタル場合(民第九八五條第三項)

家督相續届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

父 丙 野 丁 助 三男  
母 ハ ナ

選定家督相續人 甲 野 松 之 助

明治十五年八月八日生

右神奈川縣横濱市加賀町二丁目八番地戸主丙野丁助三男松之助大正九年十月十日前戸主義太郎死亡ニ因リ家督相續戸主ト爲ル  
右家督相續別紙選定ヲ證スル書面、家督相續人選定許可ノ裁判ノ謄本及親族會員選定ノ裁判ノ謄本相添ヘ及御届候也

大正九年十月三十日

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿 届出人 甲 野 松 之 助

右家督相續ニ同意致候

戸主 丙 野 丁 助 安政元年二月二日生

二八五



備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

第四 被相續人ノ直系尊屬カ家督相續ヲ爲ス場合(民第九八四條)

一 民法第九百八十二條各號ノ家族ナキ場合

家督相續届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

家督相續人 前戸主義 太郎父

甲野 仁 吉

右仁吉大正九年十月十日前戸主義太郎死亡ニ因リ家督相續戸主ト爲ル

安政三年四月八日生

大正九年十月二十日

届出人

甲野 仁 吉

東京市麴町區長 雲 井 高 輔殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 民法第九百八十三條ノ規定ニ依リ家督相續人不選定ノ許可ヲ得タル場合

家督相續届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

家督相續人 前戸主義 太郎父

甲野 仁 吉

右仁吉大正九年十月十日前戸主義太郎死亡ニ因リ家督相續戸主ト爲ル

安政三年四月八日生

大正九年十月三十日

届出人

甲野 仁 吉

東京市麴町區長 雲 井 高 輔殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

第五 家督相續人カ胎兒ナル場合

一 胎兒ノ家督相續届

家督相續届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地前戸主亡甲野義太郎妻松

子

家督相續人

胎兒

大正九年十月十日前戸主義太郎死亡ニ因リ家督相續開始

大正九年十月十五日

届出人 母 甲野 松子



東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

明治十年五月十日生

備考

- 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ
- 二 胎兒カ出生シタルトキハ二ノ例ニ依リ出生届ヲ爲スヘク若胎兒死體ニシテ分娩セラレタルトキハ三ノ例ニ依リ死産届ヲ爲スヘシ

二 出生届書式

家督相續ヲ爲シタル胎兒カ出生シタル場合ニ於ケル出生届ハ普通ノ出生届ト同様ニ記載スルモ差支ナキハ勿論ナリト雖戸籍ノ記載ヲ便ナラシムル爲左ノ例ニ依リ記載スルモ可ナリ

出生届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地前戸主無職業

父亡 甲野義太郎

母 無職業 松子

禮太郎

出生子

出生ノ時 大正九年十一月二十日午前十時

出生ノ場所 本籍

大正九年十月十日前戸主父義太郎死亡ニ因リ同月十五日右禮太郎ノ爲メ胎兒家督相續届出

右嫡出子出生及御届候也

大正九年十一月二十五日

届出人 母

甲野松子

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

明治十年五月十日生

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

三 死産届書式

(イ) 母ヨリ届出ヲ爲ス場合

胎兒死産届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地前戸主亡甲野義太郎妻松子

家督相續人

右大正九年十月三十日死産

右死産別紙醫師(産婆)ノ檢案書相添ヘ及御届候也

大正九年十一月五日

胎兒

届出人 母

甲野松子

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

明治十年五月十日生

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

(ロ) 家督相續人ヨリ届出ヲ爲ス場合

戸籍 届書申請書式 家督相續



胎兒死産届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地前戸主亡甲野義太郎妻松子

家督相續人

胎兒

右大正九年十月三十日死産  
右死産別紙醫師(産婆)ノ檢案書相添へ及御届候也  
大正九年十一月五日

届出人

母松子疾病ニ因リ届出ヲ爲スコト能ハサルニ付キ家督相續人

甲野義二郎<sup>㊦</sup>

明治元年九月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考

- 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ
- 二 家督相續人ハ本例ニ依ル届出ヲ爲シタル後別ニ自己ノ家督相續届ヲ爲スヘキモノトス

第六 家督相續届ニ依ル新戸籍記載事項ノ追完

新戸籍法施行前ニ編製シタル戸籍ニハ新法ノ規定ニ依リテ記載ヲ必要トスル事項ノ記載セラレサルモノアリ例ヘハ明治十九年内務省令第二十二號ニ依ル戸籍ニハ戸主及家族ノ父ノ氏名續柄ヲ記載ス

ルモ其ノ母ノ氏名ヲ記載セス故ニ此ノ戸籍ヲ家督相續ニ因リ新ニ編製スル場合ニハ母ノ氏名ヲ追記セサルヘカラス而モ之ヲ追記スヘキ基本材料役場ニ存セサルヲ以テ家督相續届ニ之ヲ記載セシメ之ニ基キ新戸籍ノ記載ヲ爲スヘキモノトス(戸第五四條ノ適用)今專ラ此ノ例ニ就左ニ書式ヲ示スヘシ

家督相續届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

家督相續人

前戸主義太郎長男

甲野禮太郎

明治三十年一月一日生

右禮太郎大正九年十月十日前戸主義太郎死亡ニ因リ家督相續戸主ト爲ル  
新戸籍ニ追完スヘキ事項

一 母松子ノ父母ノ氏名及父母トノ續柄

父亡 丙山信太郎

母 ヨシ

二女

二 叔父義二郎養子正之助ノ父母ノ氏名及父母トノ續柄

父 乙川孝輔

母 秋子

三男

三 祖父仁吉ノ母ノ氏名

母亡 クニ

右家督相續及御届候也

大正九年十月二十日

届書申請書式 家督相續



届出人

甲野禮太郎

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

第七 選定又ハ指定ニ因リ廢家ノ上他家相續ヲ爲シタル場合

一 選定家督相續人ノ場合

家督相續届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

父亡 乙川孝輔 二男

母亡 秋子

選定家督相續人

前戸主義  
太郎從弟

甲野孝二郎

明治三十年一月七日生

右千葉縣千葉郡千葉町一番地廢家戸主乙川孝二郎大正九年十月十日前戸主義太郎死亡ニ

因リ家督相續戸主ト爲ル

右家督相續別紙選定ヲ證スル書面及親族會員選定ノ裁判ノ謄本相添ヘ及御届候也

大正九年十月三十日

届出人

甲野孝二郎

東京市麴町區長

雲井高輔殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

廢家ノ上他家相續

二

廢家者ニ之ト共ニ相續家ニ入ルヘキ家族アルトキハ左ノ例ニ依リ本書式申請

出文ノ前之ヲ記載スヘシ

父亡 何

某 何男

母亡

某

戸主孝二郎 孝二郎弟  
ト共ニ入籍

何年何月何日生

三 家督相續届ト共ニ別ニ廢家届ヲ爲スコトヲ要ス

二 指定家督相續人ノ場合

家督相續届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

父亡 乙川孝輔 二男

母亡 秋子

指定家督相續人

前戸主義  
太郎從弟

甲野孝二郎

明治三十年一月一日生

右千葉縣千葉郡千葉町一番地廢家戸主乙川孝二郎大正九年十月十日前戸主義太郎死亡ニ

因リ家督相續戸主ト爲ル

右家督相續及御届候也

大正九年十月三十日

届出人

甲野孝二郎



戸籍 届書申請書式 推定家督相續人ノ廢除

二九四

東京市麴町區長 雲 井 高 輔殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ

二 前號備考参照ノコト

### 第八 家督相續回復ノ場合ノ届出

#### 家督相續回復届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

家督相續人 前戸主 仁吉孫

甲野禮太郎

右禮太郎大正七年三月七日前戸主仁吉死亡ニ因リ家督相續戸主ト爲ル  
明治三十年一月十日生

右家督相續回復別紙裁判ノ謄本及判決確定證明書相添へ及御届候也

大正八年一月二十日

東京市麴町區長 雲 井 高 輔殿 届出人 甲野禮太郎

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

#### 第十四款 推定家督相續人ノ廢除

既ニ述ヘタル如ク法定ノ推定家督相續人ハ家督相續ノ開始アレハ常ニ當然戸主ト爲ルモノトス然ルニ戸

主ハ家族ニ對シテ重大ナル權利義務ヲ有スル者ニシテ家族制度ノ嚴重ナル我邦ニ於テハ戸主ハ實ニ重要ノ地位ヲ有スルモノナルヲ以テ實際戸主トシテ家督ヲ執ルニ不適當ナルモノハ之ヲシテ戸主タラシメサルコトヲ得ルノ途ヲ開クノ必要アリ故ニ民法ハ法定ノ推定家督相續人ニ付左ノ事由アルトキハ被相續人ハ其ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ルモノトセリ(民第九七五條)

一 被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルコト

二 疾病其ノ他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リ家督ヲ執ルニ堪ヘザルヘキコト

三 家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルコト

四 浪費者トシテ準禁治産ノ宣告ヲ受ケ改悛ノ望ナキコト

其ノ他正當ノ事由アルトキハ被相續人ハ親族會ノ同意ヲ得テ其ノ廢除ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス相續人ノ廢除ハ遺言ニ因リテ其ノ意思ヲ表示スルコトヲ得ヘク(民第九七六條)此ノ場合ニハ遺言執行者ヨリ裁判所ニ請求スルモノトス

相續人ノ廢除ハ家督相續ノ開始前ニ於テハ前ニ述ヘタル廢除ノ原因カ止ミタルトキハ被相續人又ハ推定家督相續人ニ於テ其ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ルモノトス但シ被相續人ハ遺言ニ因リ事ノ意思ヲ表示スルコトヲ得(民第九七七條)而シテ廢除又ハ其ノ取消ハ相續人ノ身分ニ重大ナル關係ヲ有スルノミナラス後日相續争ノ原因ト爲ルコトアルヘキヲ以テ之ヲ届出テシメ戸籍上ニ於テ之ヲ明確ニナシ置ク

戸籍 届書申請書式 推定家督相續人ノ廢除

二九五



ノ必要アリ即戸籍法ハ其ノ届出ヲ命シタル所以ナリトス以下項ヲ分ツテ其ノ詳細ヲ説明セン

第一項 届出期間

法定ノ推定家督相續人ノ廢除及其ノ取消ノ届出ハ共ニ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スモノトス(戸第一三二條、第一三三條)

第二項 届出地

法定ノ推定家督相續人ノ廢除及其ノ取消ノ届出ハ共ニ別ニ届出地ノ限定ナキヲ以テ届出通則ノ規定ニ從ヒ廢除セラレタル者ノ本籍地又ハ届出人ノ所在地ニ爲スヘキモノトス(戸第四三條)

第三項 届出義務者

右兩種ノ届出共ニ訴ヲ提起シタル者ヨリ届出ツルモノトス(戸第一三二條、第一三三條)

第四項 届書ノ作製

法定ノ推定家督相續人廢除ノ届書ニハ通則ニ定メタル一般ノ記載事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第一三二條)

一 廢除セラレタル者ノ氏名及本籍

二 廢除ノ原因

三 裁判確定ノ日

廢除ノ取消届ニハ左ノ特別ナル事項ヲ記載スヘシ(戸第一三三條)

一 廢除セラレタル者ノ氏名及本籍

二 裁判確定ノ日

以上何レノ届書ニモ裁判ノ謄本ヲ添附セサルヘカラス

第五項 届書式

第一 廢除ノ場合

一 被相續人カ生前ニ於テ廢除ノ請求ヲ爲シタル場合

推定家督相續人廢除届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎長男

推定家督相續人

甲野禮太郎

右大正九年五月五日疾病ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルニ因リ推定家督相續人廢除ノ裁判

確定

右推定家督相續人廢除別紙裁判ノ謄本及判決確定證明書相添ヘ及御届候也

大正九年五月十二日

届出人 戸主 甲野義太郎

明治元年九月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二

戸籍 届書申請書式 推定家督相續人ノ廢除



戸籍 届書申請書式 推定家督相續人ノ廢除

二九八

二 遺言ニ因リテ廢除ノ意思ヲ表示シタル場合

推定家督相續人廢除届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地亡戸主甲野義太郎長男

推定家督相續人 甲野禮太郎

右大正九年五月五日被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シタルニ因リ推定家督相續人廢除ノ裁判確定

右推定家督相續人廢除別紙裁判ノ謄本及判決確定證明書相添へ及御届候也  
大正九年五月十二日

本籍 東京市神田區錦町一丁目一番地戸主

届出人 亡義太郎遺言執行者 乙川孝輔

明治二年四月八日生

東京市神田區長 山川清殿

備考

一 本例ハ届出人ノ所在地タル本籍地市町村長ニ届出テタル場合ナルニ付届書ニ通テ差出スヘシ

二 遺言ノ謄本ヲ添付スルニ及ハス

第二 廢除ノ取消ノ場合

一 被相續人ヨリ其ノ生前ニ於テ取消ヲ請求シタル場合

家督相續人廢除取消届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎長男

甲野禮太郎

被廢除者

右大正十年五月七日家督相續人廢除取消ノ裁判確定

右家督相續人廢除取消別紙裁判ノ謄本及判決確定證明書相添へ及御届候也  
大正十年五月十二日

届出人 戸主 甲野義太郎  
明治元年九月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 被廢除者ヨリ取消ヲ請求シタル場合

家督相續人廢除取消届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎長男

甲野禮太郎

被廢除者

右大正十年五月七日家督相續人廢除取消ノ裁判確定

右家督相續人廢除取消別紙裁判ノ謄本及判決確定證明書相添へ及御届候也  
大正十年五月十二日

届出人 推定家督相續人 甲野禮太郎  
明治三十年一月一日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

戸籍 届書申請書式 推定家督相續人ノ廢除

二九九



備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

三 遺言ニ因リ取消ノ意思ヲ表示シタル場合

家督相續人廢除取消届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地亡戸主甲野義太郎長男

被廢除者 甲野禮太郎

右大正十年五月七日家督相續人廢除取消ノ裁判確定

右家督相續人廢除取消別紙裁判ノ謄本及判決確定證明書相添ヘ及御届候也

大正十年五月十二日 本籍 東京市神田區錦町一丁目一番地戸主

届出人 亡義太郎遺言執行者 乙 川 孝 輔

明治二年四月八日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔殿

備考 一 本例ハ事件本人ノ本籍地ニ届出ツル場合ナルニ付届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 第一ノ二ノ備考参照ノコト

第十五款 家督相續人ノ指定

戸主ニ法定ノ推定家督相續人ナキトキハ戸主ハ家督相續人ヲ指定スルコトヲ得ルコトハ第十三款ニ於テ述ヘタルカ如シ指定セラルルコトヲ得ル者ハ必スシモ戸主ノ親族タルコトヲ要セス又戸主ハ一旦相續人

ノ指定ヲ爲スモ之ヲ任意ニ取消スコトヲ得ルノミナラス相續人ヲ指定シタル後ニ戸主ニ實子又ハ養子等ノ法定ノ推定家督相續人アルニ至リタルトキハ前ニ爲シタル指定ハ當然其ノ效力ヲ失フモノトス(民第九七九條第一項第二項)

指定ハ死亡又ハ隠居ニ因ル家督相續ノ場合ニノミ爲スコトヲ得ルモノニシテ入夫婚姻、入夫離婚又ハ國籍喪失ノ場合ニ於テハ相續人ノ指定ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(民第九七九條第三項)蓋家ヲ去ル者ヲシテ家督相續人ノ指定ヲ爲サシムルハ妥當ナラサレハナリ

家督相續人ノ指定及其ノ取消ハ届出ニ因リテ始テ其ノ效力ヲ生スルモノトス(民第九八〇條)尙家督相續人ノ指定及其ノ取消ハ遺言ヲ以テ其ノ意思ヲ表示スルコトヲ得ルモノトス(民第九八一條)此ノ場合指定又ハ取消ハ被相續人ノ死亡ノ時ニ遡リテ其ノ效力ヲ生スルモノトス 其ノ他詳細ノ説明ハ項ヲ分ツテ説明スル所ニ依リテ了知セラルヘシ

第一項 届出期間

指定及其ノ取消ハ届出ニ因リテ效力ヲ生スルモノナルヲ以テ元ヨリ届出期間ノ定ナシ唯指定家督相續人カ死亡シタルトキハ指定者ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其ノ旨ヲ届出ツヘキモノトス(戸第一三六條)

第二項 届出地

戸籍 届書申請書式 家督相續人ノ指定



届出地ハ別ニ限定シアラサルヲ以テ通則ノ規定ニ依リテ被相續人又ハ相續人ノ本籍地又ハ被相續人ノ所在地ニ届出ツヘキモノトス(司法省戸籍寄留先例全集「二二三」参照)

第三項 届出人

指定、取消及相續人ノ死亡共ニ被相續人ヨリ届出ツルモノニシテ遺言ニ因ル指定及取消ハ遺言執行者ヨリ届出ツヘキモノトス

家督相續人ノ指定及其ノ取消ハ届出ニ因リテ其ノ效力ヲ生スル行爲ニシテ義務トシテノ届出ニ非サルヲ以テ戸主カ無能力者ナルトキト雖意思能力ヲ有スル以上ハ自ラ届出ヲ爲スヘク法定代理人ヨリ届出ツヘキモノニ非ス未成年戸主カ指定又ハ其ノ取消ヲ爲ス場合ニハ民法第四條ノ規定ニ依リ法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要シ尙意思無能力者ハ指定又ハ其ノ取消ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第四項 届書ノ作製

家督相續人ノ指定及其ノ取消ノ届書ニハ通則ニ定メタル一般ノ事項ノ外指定セラレタル者ノ氏名及本籍ヲ記載スルヲ要ス(戸第一二三條、第一三四條)而シテ遺言ニ因ル家督相續人ノ指定又ハ指定取消ノ届書ニハ遺言ノ謄本ヲ添附スヘシ(戸第一二五條)

指定カ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テ其ノ原因カ被相續人ニ子又ハ養子アルニ至リタルコトニ存スルトキハ市町村長ハ其ノ出生届又ハ養子縁組届ニ基キテ戸籍ニ指定失效ノ事由ヲ記載シ指定ニ關スル戸籍ノ記載

ヲ抹消スヘキヲ以テ(戸施第一九條)別ニ指定失效ノ届出ヲ爲スコトヲ要セス唯被指定者カ死亡シタル場合ニハ其ノ届出ヲ要スルモノトス(戸第一三六條)

第五項 届書式

第一 指定ノ場合

一 戸主ノ生前ニ於テ爲ス指定

(イ) 自家ノ家族ヲ指定スル場合

家督相續人指定届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

被相續人

甲 野 義 太 郎

指定家督相續人

甲 野 義 二 郎

戸主義太郎弟

右家督相續人指定及御届候也

届出人

甲 野 義 太 郎

大正九年十月十日

明治元年九月七日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿  
備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ



戸籍 届書申請書式 家督相續人ノ指定

(ロ) 他家ノ家族ヲ指定スル場合

家督相續人指定届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主  
被相續人 甲野義太郎

本籍 東京市神田區錦町一丁目一番地戸主乙川孝輔二男

指定家督相續人 戸主義太郎男  
乙川孝二郎

右家督相續人指定及御届候也

大正九年十月十日

届出人

甲野義太郎 印  
明治元年九月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考

一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ蓋指定ニ關スル事項ハ被指定者ノ戸籍ニ記載ヲ要セサルニ付被指定者カ他ノ市町村ニ本籍ヲ有スルトキト雖届書ノ送付ヲ爲ササルヲ以テナリ

二 本例ハ指定家督相續人カ被相續人ノ親族ナル場合ノ例ヲ示ス

(ハ) 戸主力意思能力ヲ有スル未成年者ナル場合

家督相續人指定届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

被相續人

指定家督相續人 戸主義太郎弟

甲野義太郎  
甲野義二郎

右家督相續人指定及御届候也

大正九年十月十日

所在(住所寄留)東京市神田區錦町一丁目一

番地

届出人

甲野義太郎 印  
明治三十八年十一月七日生

東京市神田區長 山川清殿

右家督相續人ノ指定ニ對シ被相續人義太郎ノ求ニ因リテ同意致候

親權ヲ行フ 甲野仁吉 印

備考

一 本例ハ届出人ノ所在地ニ届出ツル場合ナルニ付届書ニ通ヲ差出スヘシ  
二 指定者ニ意思能力アルコトヲ證スル爲同意者ヲシテ特ニ本人ノ求ニ因リテ同意シタル旨ヲ記載セシムルモノトス  
明治元年九月七日生

二 遺言ニ因ル指定ノ場合

家督相續人指定届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地七戸主

被相續人

甲野義太郎

戸籍 届書申請書式 家督相續人ノ指定



戸籍 届書申請書式 家督相續ノ指定

三〇六

指定家督相續人

亡戸主義 太郎弟

甲野義二郎

右家督相續人指定別紙遺言ノ謄本相添へ及御届候也

大正九年十月十日

本籍 東京市麴町區元園町一丁目一番地戸主

届出人 遺言執行者 乙川孝輔

明治九年八月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

- 備考一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ
- 二 届出人タル遺言執行者カ被相續人又ハ家督相續人ノ親族ナルトキハ其ノ續柄ヲ届出人氏名ノ冒頭ニ記載スヘシ
- 三 本例ハ指定家督相續人カ被相續人ノ家族ナル場合ナリ若他家ノ家族ナルトキハ第一ノ一ノ(ロ)ノ例ニ基キ本例書式ヲ改ムヘシ

第二 指定ノ取消ノ場合

一 戸主ノ生前ニ於テ爲ス取消

(イ) 被指定者カ自家ノ家族ナル場合

家督相續人指定取消届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

被相續人

指定家督相續人

戸主義 太郎弟

甲野義太郎

甲野義二郎

右家督相續人指定取消及御届候也

大正十一年十一月八日

届出人

甲野義太郎

明治元年九月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

(ロ) 被指定者カ他家ノ家族ナル場合

家督相續人指定取消届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

被相續人

本籍

東京市神田區錦町一丁目一番地戸主乙川孝輔二男

指定家督相續人

戸主義 太郎甥

乙川孝二郎

右家督相續人指定取消及御届候也

大正十一年十一月八日

届出人

甲野義太郎

明治元年九月七日生

戸籍 届書申請書式 家督相續ノ指定

七〇七



東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 本例ハ指定家督相續人カ戸主ノ親族ナル場合ノ例ヲ示ス

二 遺言ニ因リテ指定ヲ取消ス場合

家督相續人指定取消届

本 籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地亡戸主

被相續人

甲 野 義 太 郎

指定家督相續人 亡戸主義 太郎甥

甲 野 義 二 郎

右家督相續人指定取消別紙遺言ノ謄本相添へ及御届候也

大正十一年十一月八日

本 籍 東京市麴町區元園町一丁目一番地戸

主

届出人 遺言執 行者

乙 川 孝 輔 郎

明治九年八月七日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 第一ノ二ノ備考参照ノコト

第三 指定家督相續人カ死亡シタル場合ノ届出

指定家督相續人死亡届

本 籍 東京市神田區錦町一丁目一番地戸主乙川孝輔二男

乙 川 孝 二 郎

指定家督相續人 戸主義 太郎甥

右指定家督相續人死亡及御届候也

大正十二年八月十二日

本 籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

届出人 指定者 甲 野 義 太 郎 郎

明治元年九月七日生

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

備考 一 指定家督相續人ノ死亡届ハ相續人ノ本籍地市町村長ニ送付スヘキモノニ非サ

ルヲ以テ本例ノ場合ニハ届書一通ヲ差出スヲ以テ足ルモノトス

二 本例ハ被相續人ト指定家督相續人ト親族關係アル場合ノ例ヲ示ス

三 指定家督相續人カ被相續人ノ家族ナルトキハ普通ノ死亡届ヲ爲スヘキニ付本

例ニ依ル死亡届ヲ爲スニ及ハス

第十六款 入 籍

茲ニ説明スル入籍トハ所謂親族入籍及引取入籍ト稱スルモノニシテ民法第七百三十七條及第七百三十八條ニ規定シタル場合ナリトス

親族入籍トハ戸主ノ親族ニシテ他家ニ在ル者カ自ラ進ンテ戸主ノ家ニ入ル行爲ニシテ此ノ入籍ニハ左ノ



条件ヲ具備スルコトヲ要ス(民第七三七條)

- 一 入籍セントスル者ハ入籍スヘキ家ノ戸主ノ親族ナルヲ要ス
  - 二 入籍スヘキ家ノ戸主ノ同意ヲ要ス
  - 三 入籍セントスル者カ去ルヘキ家ノ家族ナルトキハ其ノ家ノ戸主ノ同意ヲ要ス
  - 四 入籍セントスル者カ未成年者ナルトキハ親權者又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
  - 五 入籍セントスル者ハ意思能力ヲ有スル者ナラサルヘカラス
- 次ニ引取入籍ト稱スルハ民法第七百三十八條ニ規定スルモノニシテ之ニ二種アリ(一)ハ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者カ其ノ配偶者又ハ養親ノ親族ニ非サル自己ノ親族ヲ婚家又ハ養家ノ家族ト爲スモノニシテ(二)ハ婚家又ハ養家ヲ去リタル者カ婚家又ハ養家ニ殘シタル自己ノ直系卑屬(子孫)ヲ自家ノ家族ト爲スモノトス引取入籍ニ付テハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
- 一 引取者カ家族ナルトキハ其ノ家ノ戸主ノ同意ヲ要ス
  - 二 引取ラルヘキ者カ家族ナルトキハ其ノ家ノ戸主ノ同意ヲ要ス
  - 三 配偶者又ハ養親ノ同意ヲ要ス
  - 四 引取者カ未成年者ナルトキハ親權者又ハ後見人ノ同意ヲ要ス
  - 五 引取入籍ノ場合ニハ入籍者ニハ意思能力アルコトヲ要セサルモ本人ニ意思能力アル上ハ其ノ意ニ反

シテ引取ルコトヲ得ス即其ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトス而シテ入籍者カ意思無能力者ナルトキハ其ノ者ノ親權者又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

以上各場合ニ於ケル取扱ノ詳細ハ以下各項ノ説明ニ依リテ了知セラルヘシ

**第一項 届出期間**

入籍ハ届出ニ因リテ始テ其ノ效力ヲ生スル行爲ナルヲ以テ届出期間ノ定ナシ

**第二項 届出地**

届出地ニ付テモ別ニ制限的ノ規定ナキヲ以テ届出ノ通則ニ從テ入籍者ノ本籍地又ハ届出人ノ所在地ニ届出ツヘキモノトス

**第三項 届出人**

親族入籍ノ場合ニハ入籍者本人ヨリ、引取入籍ノ場合ニハ引取者ヨリ届出ツヘキモノトス(戸第一三七條、第一三八條)尙入籍ハ義務トシテノ届出ニ非サルニ付入籍者又ハ引取者カ未成年者ナルトキト雖自ラ届出ツヘキモノトス

**第四項 届書ノ作製**

親族入籍ノ届書ニハ一般ノ記載事項ノ外左ノ特別ナル事項ヲ記載スヘシ(戸第一三七條)

- 一 入籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及本籍



二 入籍スヘキ家ノ戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄  
 三 原籍ノ戸主ノ氏名、本籍及其ノ戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄  
 其ノ他入籍スヘキ者ノ父母ノ氏名及父母トノ續柄ハ戸籍ノ記載上必要ナルヲ以テ之ヲ届書ニ記載スヘキ  
 モノトス引取入籍亦同様ナリ  
 引取入籍ノ届書ニハ次ノ特別ノ事項ヲ記載スヘシ(戸第一三二八條)即親族入籍ニ付テ記載ヲ要スル事項ヲ  
 記載スルノ外尙入籍スヘキ者ノ氏名及出生ノ年月日ヲ記載スヘキモノトス親族入籍ニ付此ノ記載ヲ特ニ  
 明定セサルハ届出人トシテ記載スルカ故ナリ入籍者ト引取者トノ續柄モ亦届書ニ記載スヘシ其ノ他詳細  
 ハ以下ニ示ス書式ニ依リテ了知セラルヘシ

第五項 届書式

第一 親族入籍

一 同一市町村内ニ本籍ヲ有スル者カ入籍ヲ爲ス場合

一 入籍届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地  
 入籍スヘキ家ノ戸主 甲野義太郎  
 本籍 東京市麴町區平河町一丁目一番地戸主丙川信太郎孫

入籍者 戸主義太郎男

父 丙川信二郎 一男  
母 千代

丙川 二郎  
明治三十年五月五日生

右入籍及御届候也  
大正九年十月十日

届出人 丙川 二郎

東京市麴町區長 雲井高輔殿  
右入籍ニ同意致候

入ルヘキ家ノ戸主 甲野義太郎  
明治元年九月八日生

去ルヘキ家ノ戸主 丙川信太郎  
安政三年七月八日生

備考 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ(戸籍第四三條ノ二参照)

二 他ノ市町村ニ本籍ヲ有スル者ノ入籍ヲ入籍者ノ本籍地ニ届出ツル場合

入籍届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地  
 入籍スヘキ家ノ戸主 甲野義太郎

戸籍 届書申請書式 入籍



本籍

東京市神田區錦町一丁目一番地戸主丙川信太郎孫  
父 丙川信二郎  
母 千代 二男

入籍者 戸主義  
太郎甥

丙川 二郎  
明治三十年五月五日生

右入籍及御届候也  
大正九年十月十日

届出人

丙川 二郎

東京市神田區長 山川 清殿  
右入籍ニ同意致候

入ルヘキ家 日野義太郎  
ノ戸主 明治元年九月八日生

去ルヘキ家 丙川信太郎  
ノ戸主 安政三年八月八日生

備考 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ

三 他ノ市町村ニ本籍ヲ有スル者ノ入籍ヲ入籍者ノ所在地ニ届出ツル場合

入籍届

本籍

東京市麹町區麹町四丁目六番地

入籍スヘキ家ノ戸主

本籍

甲野義太郎  
東京市神田區錦町一丁目一番地戸主丙川信太郎孫  
父 丙川信二郎  
母 千代 二男

入籍者 戸主義  
太郎甥

丙川 二郎  
明治三十年五月五日生

右入籍及御届候也  
大正九年十月十日

所 在(住所寄留)千葉縣千葉郡千葉町一番地  
届出人 丙川 二郎

千葉縣千葉郡千葉町長 波川 保吉殿  
右入籍ニ同意致候

入ルヘキ家 甲野義太郎  
ノ戸主 明治元年九月八日生

去ルヘキ家 丙川信太郎  
ノ戸主 安政三年七月八日生

備考 一 本例ニ依ル届書ハ三通ヲ差出スヘシ  
二 入籍者カ入籍スヘキ家ト本籍地ヲ同クスル場合ニ於テハ一ノ例ニ依リ入籍者ノ肩書ヲ記載シ他ハ本例ニ準スヘク尙届書ハ三通ヲ要スルコト本例ト同様ナリ



四 意思能力ヲ有スル未成年者カ入籍ヲ爲ス場合

入籍 届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地

本籍 東京市麴町區平河町一丁目一番地戸主丙川信太郎孫

父 丙川信一郎 母 千代 二男

入籍者 戸主義太郎甥

丙川二郎

明治三十八年十一月七日生

右入籍及御届候也

大正九年十月十日

東京市麴町區長 雲井高輔殿 届出人

丙川二郎

右入籍ニ對シ本人ノ求ニ因リテ同意致候

入ルヘキ家ノ戸主

甲野義太郎

明治元年九月八日生

去ルヘキ家ノ戸主

丙川信太郎

明治十年五月四日生

親權ヲ行フ

丙川信一郎

安政三年七月八日生

備考

- 一 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ
- 二 入籍ハ未成年者ト雖意思能力アル上ハ自ラ届出ヲ爲スヘキモノニシテ法定代理人ヨリ届出ツヘキモノニ非ス
- 三 入籍者ニ意思能力アルコトヲ證スル爲同意ハ本人ノ請求ニ因リテ爲シタル旨ヲ記載スヘキモノトス

五 妻ヲ有スル者カ入籍ヲ爲ス場合

入籍 届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地

入籍スヘキ家ノ戸主

甲野義太郎

本籍 東京市麴町區平河町一丁目一番地戸主丙川信太郎孫

父 丙川信二郎 母 千代 二男

入籍者 戸主義太郎甥

丙川二郎

明治三十年五月五日生

父 乙川孝輔 母 秋子 長女

戸籍 届書申請書式 入籍

三二七



夫二郎ト共ニ入籍 二郎妻

ヨ ネ

右入籍及御届候也

明治三十一年九月九日生

大正九年十月十日

届出人

丙 川 二 郎

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

右入籍ニ同意致候

入ルヘキ家ノ戸主

甲 野 義 太 郎

去ルヘキ家ノ戸主

丙 川 信 太 郎

備考 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ

明治元年九月八日生

安政三年七月八日生

六 廢家ノ上入籍ヲ爲ス場合

(イ) 廢家者カ單身戸主ナル場合

入籍届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地

入籍スヘキ家ノ戸主

甲 野 義 太 郎

本籍

東京市神田區錦町一丁目一番地戸主

父亡 丙 川 信 二 郎 二 男  
母亡 千 代

入籍者 戸主義 太郎 甥

丙 川 二 郎

明治三十年五月五日生

右二郎廢家ノ上入籍

右入籍及御届候也

大正九年十月十日

届出人

丙 川 二 郎

東京市麴町區長 雲 井 高 輔 殿

右入籍ニ同意致候

入ルヘキ家ノ戸主

甲 野 義 太 郎

明治元年九月八日生

備考 一 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ

二 本例ニ依ル届出ノ外別ニ廢家届ヲ爲スコトヲ要ス

(ロ) 廢家入籍者ニ家族アル場合

入籍届

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地

戸籍 届書申請書式 入籍



入籍スヘキ家ノ戸主

本籍

東京市麴町區元園町一丁目一番地戸主

甲野義太郎

父亡 丙川信二郎  
母亡 千代 二男

入籍者 戸主義太郎甥

丙川二郎

明治三十年五月五日生

右二郎廢家ノ上入籍

父 乙川孝輔  
母 秋子 長女

夫二郎ト共ニ入籍 二郎妻

丙川二郎

明治三十一年九月九日生

父 丙川二郎  
母 乙 長男

父ト共ニ入籍 戸主義太郎姪孫

吉貞

右入籍及御届候也

大正九年十月十日

届出人

丙川二郎

東京市麴町區長 雲井高輔殿

右入籍ニ同意致候

入ルヘキ家ノ戸主

甲野義太郎

明治元年九月八日生

備考 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ

第二 引取入籍

一 配偶者ノ親族ニ非サル自己ノ親族ヲ婚家ニ入籍セシムル場合

入籍届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地

入籍スヘキ家ノ戸主

本籍

東京市麴町區元園町一丁目一番地戸主乙川孝輔孫

甲野義太郎

本籍

父 乙川孝太郎 長女

母 乙川孝太郎ノ

入籍者 戸主義太郎妻梅子姪孫

乙川芳子

大正四年五月八日生

右入籍及御届候也

大正九年十月十日

届出人

甲野梅子

明治十年一月二十五日生



戸籍 届書申請書式 入籍

東京市麹町區長 雲井高輔殿  
右入籍ニ同意致候

大正九年十月十日

入ルヘキ家ノ戸主  
梅子ノ夫

甲 野義太郎 明治元年九月七日生

去ルヘキ家ノ戸主

乙 川孝輔 安政三年九月十日生

親權ヲ行フ父

乙 川孝太郎 明治八年四月八日生

備考 一 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ

二 本例ハ引取者カ戸主ノ妻ナル場合ナルモ若引取者カ戸主ノ家族ノ妻ナルトキハ本例中前文入籍者ノ冒頭ヲ「戸主義太郎長男義ノ例ニ改メ同意文中ニ梅子ノ夫トシテ甲野義二郎ヲ加フヘシ

二 養親ノ親族ニ非サル自己ノ親族ヲ養家ニ入籍セシムル場合

第二 出典入籍

入籍届

本籍 東京市麹町區麹町四丁目六番地

入籍スヘキ家ノ戸主

甲 野義太郎

本籍 東京市神田區錦町一丁目一番地戸主丙川信太郎三男

父 丙川信太郎 三男

入籍者 戸主義太郎養子信二郎弟

丙 川信三郎 大正四年八月七日生

右入籍及御届候也  
大正九年十月十日

届出人

甲 野信二郎 明治三十年八月八日生

東京市麹町區長 雲井高輔殿  
右入籍ニ同意致候

入ルヘキ家ノ戸主  
養父

甲 野義太郎 明治元年九月七日生

養母

甲 野梅子 明治二年四月八日生

去ルヘキ家ノ戸主  
親權ヲ行フ父

丙 川信太郎 安政三年九月十日生

備考 一 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ

二 本例ハ養親カ戸主ナル場合ナルモ養親カ家族ナルトキハ本例前文入籍ノ冒頭ヲ「戸主義太郎長男義太郎養子信二郎弟」ト改メ同意文中ニ養父トシテ甲野義太郎ヲ加フヘシ

戸籍 届書申請書式 入籍



戸籍 届書申請書式 入籍

三二四

三 婚家又ハ養家ヲ去リタル者カ婚家又ハ養家ニ在ル直系ノ卑屬ヲ入籍セシムル場合  
(イ) 前養家ニ在ル直系卑屬ヲ引取ル場合

入籍届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地

入籍スヘキ家ノ戸主

甲野義太郎

本籍

(禮二郎前養家)

東京市麴町區元園町二丁目一番地戸主丙川信太

郎孫

父 甲野禮二郎 二男

母 花子

丙川禮次

入籍者 戸主義太郎孫

大正五年五月五日生

右入籍及御届候也

大正九年十月十日

届出人 戸主義太郎二男

甲野禮二郎 明治三十年四月四日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

右入籍ニ同意致候

入ルヘキ家ノ戸主 甲野義太郎 明治元年九月七日生

去ルヘキ家ノ戸主 丙川信太郎 明治元年十月七日生

後見人

備考 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ

(ロ) 前婚家ニ在ル直系卑屬ヲ引取ル場合

入籍届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地

入籍スヘキ家ノ戸主

甲野義太郎

本籍

(トク子前婚家) 千葉縣千葉郡千葉町一番地戸主乙川孝輔孫

父 乙川孝一郎 二女

母 甲野トク

乙川スミ子

入籍者 戸主義太郎姪

右入籍及御届候也

大正九年十月十日

戸籍 届書申請書式 入籍

三二五

大正五年五月五日生



届出人 戸主義 太郎 義 太郎 甲 野 太郎 乙 野 太郎 丙

明治十年三月七日生

東京市麹町區長 雲 井 高 輔 殿  
右入籍ニ同意致候

入ルヘキ家 甲 野 義 太郎 丙  
ノ戸主

明治元年九月七日生

去ルヘキ家 乙 川 孝 輔 丙  
ノ戸主

安政三年九月八日生

親權ヲ行フ 乙 川 孝 一郎 丙  
父

明治十年一月一日生

備考 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ

四 入籍者カ意思能力ヲ有スル者ナル場合

引取入籍ハ引取者ノ意思ニ基キ之ヲ爲スモノナルコトハ既ニ述ヘタル所ニシテ意思無能力者ト雖之ヲ引取ルコトヲ得ルモノナルモ入籍者本人カ成年者ナルト未成年者ナルトヲ問ハズ其ノ者ニ意思能力アルトキハ其ノ意ニ反シテ之ヲ入籍セシムルハ妥當ナラザルニ付此ノ場合ニハ入籍者本人ノ同意ヲ得ルコトヲ必要トス而シテ其ノ届書ハ前ニ示シタル各例ト異ナルモノナキヲ以テ之ニ準

シテ作製スルコトヲ得ヘク唯前例同意文中ニ左ノ一項ヲ附加スレハ足ルモノトス

入籍者本人 氏 年月 日生 名 印

第十七款 離籍

離籍ハ戸主權ヲ勵行スル一ノ手段ニシテ家族カ戸主權ニ服從セサル場合ニ戸主カ其ノ家族ヲ除斥スルノ權利ナリトス然モ是レ頗ル重大ノコトニ屬スルヲ以テ民法ニ於テハ左ノ場合ニ限りテ離籍ノ權利ヲ認メタリ

- 一 家族ハ戸主ノ意ニ反シテ其ノ居所ヲ定ムルコトヲ得サルモノトス而モ家族カ戸主ノ意ニ反シテ其ノ居所ヲ定メタル場合ニ戸主カ相當ノ期間ヲ定メテ一定ノ場所ニ居所ヲ轉スヘキ旨ヲ催告シタルニ拘ラズ尙之ニ應セサルトキハ戸主ハ其ノ家族ヲ離籍スルコトヲ得ルモノトス但シ其ノ家族カ未成年者又ハ法定ノ推定家督相續人ナルトキハ離籍スルコトヲ得サルモノトス(民第七四九條、第七四四條)
- 二 家族カ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルニ拘ラス其ノ同意ヲ得ズシテ婚姻又ハ縁組ヲ爲シタルキハ戸主ハ一年內ニ其ノ家族ヲ離籍スルコトヲ得ルモノトス此ノ場合ハ家族カ未成年者又ハ法定ノ推定家督相續人ナルトキト雖之ヲ離籍スルコトヲ得(民第七五〇條、第七四四條)



此ノ如ク離籍セラレタル者ハ當然一家ヲ創立スルモノトス(民第七四二條)家族カ養子ヲ爲シタル場合ニ於テ離籍セラレタルトキハ其ノ養子ハ養親ニ隨ヒテ其ノ家ニ入ルモノナリ(民第七五〇條)

第一項 届出期間

離籍ハ亦届出ニ因リテ效力ヲ生スル行爲ナルヲ以テ届出期間ナキモ離籍ニ因リテ一家ヲ創立シタル者ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ一家創立届ヲ爲スヘキモノトス(戸第一四〇條)

第二項 届出地

離籍届及ヒ離籍ニ因ル一家創立届ニ付テハ別ニ届出地ノ限定ナキヲ以テ通則ノ規定ニ從ヒ離籍ハ離籍ヲ爲シタル戸主ノ本籍地又ハ届出人ノ所在地ニ、離籍ニ因ル一家創立届ハ離籍セラレタル者ノ本籍地又ハ

第三項 届出人

離籍届ハ戸主ヨリ、離籍ニ因ル一家創立届ハ一家創立者ヨリ届出ツルモノトス(戸第一三九條、第一四〇條)

第四項 届書ノ作製

離籍ノ届書ニハ届出通則ニ規定シタル事項ノ外尙左ノ事項ヲ記載スヘシ(戸第一三九條)  
一 離籍セララルヘキ者ノ氏名

二 離籍ノ原因

離籍ニ因ル一家創立届書ニハ左ノ特別ナル事項ヲ記載スヘシ(戸第一四〇條)

一 離籍者ノ氏名及本籍

二 離籍者ト離籍セラレタル者トノ續柄

三 離籍ノ原因及年月日

尙此ノ場合ニ離籍セラレタル者ノ父母ノ氏名及父母トノ續柄其ノ他届出通則ニ定メタル一般ノ事項ヲ記載スヘキハ勿論トス

第五項 届書式

第一 戸主ノ同意ヲ得スシテ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲シタルニ因ル離籍ノ場合

一 戸主ノ同意ヲ得スシテ婚姻ヲ爲シタル場合

(イ) 戸主ノ本籍地市町村長ニ届出ツル場合

離籍届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎長男

被離籍者

甲野 禮太郎

戸籍

届書申請書式 離籍



夫禮太郎ト共ニ家ヲ去ル 禮太郎妻

島子

右禮太郎戸主ノ同意ヲ得スシテ島子ト婚姻ヲ爲シタルニ因リ離籍  
明治三十年一月一日生

大正九年十月十日

届出人 戸主 甲野義太郎

明治元年九月十日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

トシ 戸主ノ所在地市町村長ニ届出ツル場合

離籍届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎長男

被離籍者

甲野禮太郎

夫禮太郎ト共ニ家ヲ去ル 禮太郎妻

島子

明治三十年一月一日生

右禮太郎戸主ノ同意ヲ得スシテ島子ト婚姻ヲ爲シタルニ因リ離籍  
大正九年十月十日

千葉縣千葉郡千葉町長 波川保吉殿

備考 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ

二 戸主ノ同意ヲ得スシテ養子縁組ヲ爲シタル場合

離籍届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎弟

被離籍者

甲野義二郎

養父義二郎ト共ニ家ヲ去ル 義二郎養子

信一

明治三十年五月七日生

右義二郎戸主ノ同意ヲ得スシテ信一ト養子縁組ヲ爲シタルニ因リ離籍  
大正九年十月十日

届出人 戸主 甲野義太郎

明治元年九月十日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

二 届出地ノ異ナルニ依ル變化ハ一ノ(イ)(ロ)ニ依リ了知セララルヘシ



第二 轉居ノ催告ニ應セサル家族ヲ離籍スル場合

離籍届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主甲野義太郎弟

甲野義二郎

被離籍者

右義二郎戸主ノ轉居ノ催告ニ應セサルニ因リ離籍  
右離籍及御届候也

大正九年十月十日

届出人 戸主 甲野義太郎 郎

明治元年九月十日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考

- 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ
- 二 被離籍者ニ妻子アル場合妻ハ夫ト共ニ家ヲ去ルヘキ一付第一ノ一例ニ依リ届書ニ妻ノ記載ヲ爲スヘク子ハ當然父ノ家ニ入ルヘキモノニ非サルニ付其ノ記載ヲ爲スヘカラス
- 三 届書ニ居所指定及轉居ノ催告ヲ證ヘル書面ヲ添附スルニ及ハス

第三 離籍ニ因ルニ家創立ノ届出

一 戸主ノ同意ヲ得スシテ婚姻ヲ爲シタルニ因リ離籍セラレタル場合

(イ) 一家創立地方實家ト同一市町内ニ在ル場合

離籍ニ因ルニ家創立届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主

甲野義太郎

離籍者

父 甲野義太郎 長男

禮太郎

一家創立者

父 丙原悌八 長女

島子

夫禮太郎ト共ニ入籍

明治三十年一月一日生

右禮太郎戸主ノ同意ヲ得スシテ島子ト婚姻ヲ爲シ大正九年十月十日離籍ニ因リ東京市麴町區平河町一丁目四番地ニ一家創立

右離籍ニ因ルニ一家創立及御届候也

大正九年十月十五日

届出人 甲野禮太郎 郎

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考

- 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ(戶施第四三條ノ二參照)
- 二 一家創立者ハ任意ニ新ナル氏ヲ稱スルコトヲ得ルモノトス此ノ場合ニハ本例前文「一家創立」ノ下ニ「丙野氏ヲ稱ス」ノ例ニ依リ新氏ヲ記載シ届出人ノ氏名



三 本例一家創立者ハ戸主ノ長男ナルヲ以テ一家創立者ノ行ニ父母トノ續柄ヲ記載スルニ止メ別ニ戸主トノ續柄ヲ記載セサルモ一家創立者カ若シ戸主ノ子ニ非サルトキハ本例一家創立者ノ行中氏名ノ冒頭ニ「戸主義太郎弟」ノ例ニ依リ戸主トノ續柄ヲ記載スヘシ

(ロ) 一家創立地方他ノ市町村ニ屬スル場合

離籍ニ因ル一家創立届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主 甲野義太郎

離籍者 父 甲野太郎 長男  
母 梅子

一家創立者 父 丙原悌八 長女  
母 禮太郎 長女  
夫禮太郎ト共ニ入籍  
島子

右禮太郎戸主ノ同意ヲ得スシテ島子ト婚姻ヲ爲シ大正九年十月十日離籍ニ因リ東京市麴町區錦町一丁目一番地ニ一家創立

右離籍ニ因ル一家創立別紙戸籍ノ謄本相添へ及御届候也

大正九年十月十五日

東京市神田區長 山川清殿

所在 東京市神田區錦町一丁目一番地  
届出人 甲野禮太郎

- 一 本例ハ届出人ノ所在地タル一家創立地ニ届出テタルモノニシテ届書ハ二通ニ差出スヘシ
- 二 戸籍ノ謄本ヲ添附スルハ一家創立ノ戸籍ニハ戸籍法施行細則第十四條第二ノ規定ニ依リ實家ノ戸籍中一家創立者及其ノ家族ノ身分ニ關スル事項ヲ記載スヘキモノナルヲ以テ其ノ便ノ記載ノ爲ニ出テタルモノトス故ニ届書ニ實家ノ戸籍ノ謄本ヲ添附セスシテ第三款第八ノ二備考三ノ例ニ依リ身分事項ノ書ニ記載スルモ可ナリ
- 三 (イ)ノ備考参照ノコト

二 戸主ノ同意ヲ得スシテ養子縁組ヲ爲シタルニ因リ離籍セラレタル場合

離籍ニ因ル一家創立届

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地戸主 甲野義太郎

離籍者 父亡 甲野仁吉 二男  
母亡 松子  
一家創立者 戸主義太郎弟 義二郎



明治三年八月七日生

父 丙川信太郎 二男

養子 義二郎

信 一

養父義二郎ト共ニ入籍

明治三十年五月七日生

右義二郎戸主ノ同意ヲ得スシテ信一ト養子縁組ヲ爲シ大正九年十月十日離籍ニ因リ市京市麹町區平河町一丁目四番地ニ一家創立

右離籍ニ因ル一家創立及御届候也

大正九年十月十五日

届出人

甲野義二郎

東京市麹町區長 雲井高輔殿

備考

一 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ

二 一家創立地方他ノ市町村ニ屬スル場合ニ付テハ前號(ロ)ヲ参照スヘク其他前各號ノ例ヲ参照スヘシ

三 轉居ノ催告ニ應セサル爲離籍セラレタル場合

離籍ニ因ル一家創立届

本籍 東京市麹町區麹町四丁目六番地戸主

甲野義太郎

離籍者

父亡 甲野仁吉 二男  
母亡 松子

戸主義太郎弟

義二郎

一家創立者

明治三年八月七日生

右義二郎戸主ノ轉居ノ催告ニ應セス大正九年十月十日離籍ニ因リ東京市神田區錦町一丁目一番地ニ一家創立

右離籍ニ因ル一家創立別紙戸籍ノ謄本相添ヘ及御届候也

大正九年十月十五日

所在 東京市神田區錦町一丁目一番地

届出人

甲野義二郎

東京市神田區長 山川清殿

備考

一 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ

二 第三ノ一ノ(ロ)ノ備考参照ノコト

三 一家創立者ニ妻アルトキハ第三ノ一ノ(イ)ノ例ニ依リ妻ヲ記載スヘシ

第十八款 復籍拒絶

復籍拒絶モ亦離籍ト同様ニ戸主權ヲ勵行スルノ手段ニシテ戸主ノ意ニ反シテ他家ニ入りタル者ヲシテ後日實家ニ歸ラシメサルノ效果ヲ有スルモノトス而シテ復籍拒絶ヲ爲スコトヲ得ル場合モ民法上左ノ二場合ニ制限セラル

一 家族カ戸主ノ同意ヲ得スシテ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲シ他家ニ入りタルトキハ戸主ハ其ノ婚姻又ハ縁

戸籍 届書申請書式 復籍拒絶



組ノ日ヨリ一年内ニ復籍ヲ拒ムコトヲ得(民第七五〇條)

二 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者カ戸主ノ同意ヲ得シテ更ニ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタルトキハ同意ヲ爲ササリシ戸主ハ再婚姻又ハ再縁組ノ日ヨリ一年内ニ復籍ヲ拒ムコトヲ得(民第七四一條)

茲ニ注意スヘキハ復籍ノ拒絶ハ常ニ豫メ爲スヘキモノトス即復籍前、婚姻又ハ縁組ノ日ヨリ一年内ニ市町村長ニ届出ツルヲ要シ離婚又ハ離縁ニ際シテ復籍ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス又一旦爲シタル復籍ノ拒絶ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

復籍ヲ拒マレタル者カ離婚又ハ離縁ヲ爲シタルトキハ前述ノ如ク其ノ實家ニ復籍スルコトヲ得サルヲ以テ當然一家ヲ創立スルモノトス(民第七四二條)次ニ復籍拒絶ニハ關係ナキモ離婚又ハ離縁、縁組若ハ婚姻ノ取消ノ場合ニ實家ノ廢絶ニ因リテ復籍スルコト能ハサル場合ニモ亦一家ヲ創立スルモノトス(民第七四〇條)此等ノ場合ニハ離婚、離縁ノ節ニ於テ述ヘタル如ク離婚離縁等ノ届書ニ其ノ旨ヲ記載スヘキモノナルモ若之ヲ記載セサリシトキハ別ニ一家創立届ヲ爲スコトヲ要ス以上ノ詳細ハ以下項ヲ分テ説明スル所ニ依リテ了知セラルヘシ

### 第一項 届出期間

復籍ノ拒絶ハ届出ニ因リテ其ノ效力ヲ生スル行爲ナルヲ以テ届出期間ナシ

復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ニ因リテ一家ヲ創立シタル者カ縁組若ハ婚姻ノ取消又ハ離縁若ハ離婚ノ届書ニ一家創立ノ場所ヲ記載セサリシ場合ニ爲ス一家創立届ハ一家創立ノ事實ヲ知りタル日ヨリ十日内ニ爲スモノトス(戸第一四二條)

### 第二項 届出地

届出地ニ付テハ別ニ制限ノ規定ナキヲ以テ届出通則ニ依リ復籍拒絶ノ届出ハ戸主ノ本籍地又ハ所在地ニ、一家創立届ハ一家創立者ノ本籍地又ハ届出人ノ所在地ニ爲スヘシ

### 第三項 届出人

復籍拒絶届ハ戸主、一家創立届ハ一家創立者又ハ其ノ法定代理人ヨリ爲スヘキモノトス尙復籍拒絶ハ義務トシテノ届出ニ非サルニ付戸主カ無能力者ナルトキト雖自ラ届出ツヘク一家創立ハ單純ノ事實ニ關スル届出ナルニ付キ之亦自ラ届出ヲ爲シ得ルモノトス

### 第四項 届書ノ作製

復籍拒絶ノ届書ニハ届出通則ニ定メタル一般ノ記載事項ノ外左ノ特別ノ事項ヲ記載スヘシ(戸第一四一條)

- 一 復籍ヲ拒マルヘキ者ノ氏名及本籍
- 二 復籍ヲ拒マルヘキ者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名
- 次ニ一家創立届ニハ左ノ特別ノ事項ヲ記載スヘシ(戸第一四二條)



- 一 復籍拒絶者又ハ廢絶家ノ戸主ノ氏名及本籍
- 二 復籍拒絶ノ原因及年月日又ハ廢絶ノ年月日

第五項 届書式

第一 復籍拒絶ノ届出

一 戸主ノ同意ヲ得スシテ他家ニ婚姻ヲ爲シタル場合

(イ) 戸主ノ本籍地ニ届出ツル場合

復籍拒絶届

本籍

神奈川縣橋樹郡橋村十番地戸主丙川悌助長男悌八妻

丙川 萩子

右姪萩子戸主義太郎ノ同意ヲ得スシテ神奈川縣橋樹郡橋村十番地丙川悌八ト婚姻ヲ爲シタルニ因リ復籍拒絶

右復籍拒絶及御届候也

大正九年十月十日

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地

届出人 戸主

甲 野義太郎

明治元年八月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ

(ロ) 戸主ノ所在地ニ届出ツル場合

復籍拒絶届

本籍

神奈川縣橋樹郡橋村十番地戸主丙川悌助長男悌八妻

丙川 萩子

右姪萩子戸主義太郎ノ同意ヲ得スシテ神奈川縣橋樹郡橋村十番地丙川悌八ト婚姻ヲ爲シタルニ因リ復籍拒絶

右復籍拒絶及御届候也

大正九年十月十日

本籍

東京市麴町區麴町四丁目六番地

所 在(住所寄留)東京市神田區錦町一丁目一

番地

届出人 戸主

甲 野義太郎

明治元年八月七日生

東京市神田區長 山川清殿

備考 本例ニ依ル届書ハ二通ヲ差出スヘシ

二 戸主ノ同意ヲ得スシテ他家ニ養子縁組ヲ爲シタル場合

復籍拒絶届

本籍

東京市神田區小川町一丁目八番地戸主乙川孝輔養子



右弟義二郎戸主義太郎ノ同意ヲ得スシテ東京市神田區小川町一丁目八番地乙川孝輔ト養子縁組ヲ爲シタルニ因リ復籍拒絶  
右復籍拒絶及御届候也  
大正九年十月十日

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地  
届出人 戸主 甲 野義太郎

明治元年八月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ  
二 届出地ノ異ナルニ依ル記載方ハ一ノ各例ニ依リ了知セララルヘシ

三 實家(生家)戸主ノ同意ヲ得スシテ婚家又ハ養家ヨリ更ニ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル場合

婚家又ハ養家ノ戸主ノ同意ヲ得スシテ更ニ他家ニ婚姻又ハ縁組ヲ爲シタル場合ニ於テ婚家又ハ養家ノ戸主ノ爲ス復籍拒絶ノ届書ハ前掲一、二ノ例ト同様ナルニ付之ヲ略ス

(イ) 婚家又ハ養家ヨリ更ニ他家ニ婚姻ヲ爲シタル場合

復籍拒絶届

本籍 神奈川縣橋樹郡橋村十番地戸主丙川悌助長男悌八妻

丙川 萩子

右姪萩子實家戸主義太郎ノ同意ヲ得スシテ婚家東京市麴町區元園町一丁目一番地戸主乙川家ヨリ更ニ神奈川縣橋樹郡橋村十番地丙川悌八ト婚姻ヲ爲シタルニ因リ復籍拒絶  
右復籍拒絶及御届候也  
大正九年十月十日

本籍 東京市麴町區麴町四丁目六番地  
届出人 戸主 甲 野義太郎

明治元年八月七日生

東京市麴町區長 雲井高輔殿

備考 一 本例ニ依ル届書ハ一通ヲ差出スヘシ  
二 本例ハ婚家ヨリ更ニ他家ニ婚姻シタル場合ニシテ養家ヨリ更ニ他家ニ婚姻シタル場合ニ於テハ本例前文「婚家」トアルヲ「養家」ニ改ムレハ可ナリ

(ロ) 養家又ハ婚家ヨリ更ニ他家ニ養子縁組ヲ爲シタル場合

復籍拒絶届

本籍 神奈川縣橋樹郡橋村十番地戸主丙川悌助養子

丙川 義二郎

右弟義二郎實家戸主義太郎ノ同意ヲ得スシテ養家東京市神田區小川町一丁目一番地戸主乙川家ヨリ更ニ神奈川縣橋樹郡橋村十番地丙川悌助ト養子縁組ヲ爲シタルニ因リ復籍拒絶  
右復籍拒絶及御届候也  
大正九年十月十日

大正九年十月十日

届書申請書式 復籍拒絶